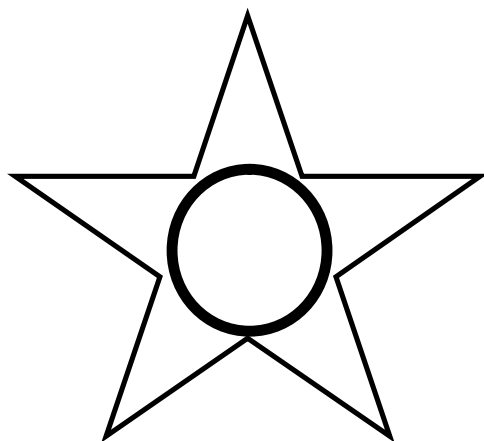


平成21年版

# 消防年報



釧路市消防本部



# は し が き

この年報は、平成20年の釧路市における消防力の現況と、消防活動に関する各分野の状況の推移と現状を理解していただくために、統計的に集録したものです。

本書を単に釧路消防の現勢を明らかにすることの利用にとどまらず、消防行政の将来を展望するなど、消防力の質の向上とその整備、充実に効果的に行うための指針としてご活用いただければ幸いです。

また本書は、特記してあるものを除き平成20年12月31日現在の資料を収録いたしました。

平成21年3月

釧路市消防長 **楡 金 達 朗**

# 目 次

釧路市の紹介	1
1 釧路市の生い立ち	3
2 釧路市の姿	3
3 釧路市の人口・世帯数	4
4 釧路市の人口・世帯数の推移	4
5 市勢と現有消防勢力の対比	5
6 釧路市の気象概況	6
(1) 月別気象概況	6
(2) 釧路南西部における気象注意報・警報発表状況	7
ア 気象注意報	7
イ 気象警報	7
(3) 釧路中部における気象注意報・警報発表状況	8
ア 気象注意報	8
イ 気象警報	8
総 説	9
釧路市消防の主要施策	11
主 要 施 策	11
1 災害対策の推進	11
2 消防体制の充実強化	11
3 救急体制の充実強化	12
総 務 編	13
1 消防本部・署・支署の所在地	15
2 消防の機構	16
3 消防職員の人員・平均年齢	17
4 職員定数の状況	17
5 消防本部・署・支署の人員配置	18
6 消防職員採用・退職・昇任	19
7 消防財政	19
(1) 過去3カ年度消防費当初予算額	19
(2) 年度別消防予算	19
警 防 編	21
1 消防力の現況	23
(1) 消防職員の現況	23
(2) 消防団員の現況	23
(3) 消防水利(地域別消防水利施設現勢表)	23

( 4 ) 消防車両等の現況 .....	24
2 警防体制 .....	24
( 1 ) 警防体制 .....	24
( 2 ) 出動計画 .....	25
( 3 ) 災害活動に対する民間協力体制の確立 .....	25
( 4 ) 林野火災及び大規模災害に対処する防災体制の確立 .....	25
3 火災・警戒出動概要 .....	26
( 1 ) 火災出動状況 .....	26
( 2 ) 過去5年間の火災出動状況の推移 .....	26
( 3 ) 過去5年間の警戒出動状況及び推移 .....	27
4 救助出動概要 .....	28
( 1 ) 前年比救助出動状況 .....	28
( 2 ) 事故種別救助出動状況 .....	28
( 3 ) 月別救助出動状況 .....	29
( 4 ) 署々別救助出動状況 .....	29
( 5 ) 過去5年間の救助出動状況の推移 .....	30
5 消防通信 .....	31
( 1 ) 有線通信施設 .....	31
( 2 ) 無線通信施設 .....	31
( 3 ) 無線局チャンネル及び周波数 .....	32
( 4 ) 災害通報等受付件数 .....	32
6 研修及び訓練実施状況 .....	33
( 1 ) 研修 .....	33
( 2 ) 訓練 .....	34
( 3 ) 消防団 .....	34
<b>救 急 編</b> .....	35
1 救急活動概要 .....	37
( 1 ) 年次別救急出場件数及び搬送人員 .....	37
表1 年次別救急出動状況の推移(過去5カ年) .....	38
( 2 ) 平成20年中の救急出動状況等 .....	38
表2 事故種別救急出動件数の全件数に対する割合 .....	38
表3 月別救急出動状況 .....	38
表4 曜日別救急出動状況 .....	38
表5 時間別救急出動状況と急病の状況 .....	38
表6 年齢別搬送人員状況 .....	39
表7 傷病程度別搬送人員状況 .....	39
表8 救急隊員が行った応急処置 .....	40
表9 救命講習実施状況 .....	40
表10 過去5カ年の救命講習実施状況の推移 .....	40

火災統計	41
1 火災概要	43
(1) 火災種別前年比較	43
(2) 火災発生状況前年比較	44
(3) 月別火災状況	45
2 主な火災	46
3 用途別・原因別火災状況	46
別表1 用途別・原因別火災状況一覧表	47
別表2 過去20年間における主な火災原因別状況	48
4 火災件数及び損害額の推移	49
別表3 10年間の火災状況の推移	50
5 所轄区域別火災状況	51
(1) 中央消防署管轄	51
(2) 東消防署管轄	51
(3) 西消防署管轄	52
(4) 全市統計	52
予防編	53
1 防火対象物状況	55
2 防火管理者選任及び消防計画提出状況	56
3 建築同意事務及び消防用設備等検査事務の状況	57
4 危険物施設の推移状況	58
5 石油コンビナート等特別防災区域内の特定事業所の現況	58
(1) 釧路地区特別防災区域特定事業所及び貯蔵取扱量(第4類)	58
(2) 特定事業所の防災資機材等(現有数量)	58
(3) 共同防災組織の防災資機材等	59
(4) 行政機関の防災資機材等	59
6 釧路市民防災センター	59
(1) 防災センター入館者数	59
(2) 施設ごとの利用者数	59
7 自主防災組織等結成状況	59
(1) 自主防災組織	59
(2) その他の団体	60
8 自主防災組織等行事別活動状況	60
9 地域防災活動状況	61
消防団編	63
1 消防団員条例定数・現在員	65
2 消防団員配置表	66

3	消防団員年齢別表 .....	67
4	消防団員勤続年数表 .....	67
5	消防団員採用・退団・昇任状況 .....	67
	<b>資料編</b> .....	69
	釧路市消防の沿革 .....	71





# 釧路市の紹介



# 釧路市の紹介

## 1 釧路市の生い立ち

釧路の語源である「クスリ」が地名として、文献の上に現れたのは、西暦 1643 年松前藩の蝦夷交易船の上乗役が当時の模様などを記した「松前旧事記」に、釧路の地名が「クスリ」と記録されているのが最古のものである。

江戸時代末期、本道周辺の重要性から幕府は松浦武四郎等に命じて本地方の探求をさせ、北方防備の重要性などもあり松前藩が「クスリ場所」と称する漁場を開設し、明治 2 年にクスリは釧路と改称釧路国釧路郡の名が定まる。

翌明治 3 年には「釧路場所」漁場持四代目佐野孫右衛門が、秋田、山形、函館付近から移住者を募集して 174 戸 537 人が定住するようになった。

明治 13 年に釧路戸長役場が設置され、その後漁場を中心として石炭鉱業、製紙工業などの産業振興がみられ、明治 23 年には釧路港が政府から特別輸出港に指定され、石炭や木材の積み出しが盛んとなり、明治 40 年には函館～釧路間の鉄道が全通。海陸交通の要衝として町勢も次第に隆盛の一途をたどり、教育施設の整備をはじめ諸官庁の出先機関も相次いで設置されるなど、市街地の形態も次第に整ってきた。この間、明治 33 年には町村制が施行、釧路町（人口 10,309 人、戸数 2,129 戸）が誕生。

その後、大正 11 年 8 月 1 日には札幌、小樽、函館、室蘭、旭川の各市とともに市制が施行され（人口 42,673 人、戸数 8,494 戸）名実ともに東北海道（道東）の中心地として発達した。

昭和 24 年、当時の鳥取町と白糠村の一部を合併（人口 85,180 人）昭和 35 年釧路空港が完成し道東の拠点機能を担う都市基盤が確立された。

また、産業にあっては道東唯一の不凍港である重要港湾と、水産業、紙パルプ工業、そして観光産業を基幹産業とし、特に観光は「釧路湿原国立公園」、「阿寒国立公園」の 2 つの国立公園を有し年間 500 万人もの観光者数をほこる観光都市「釧路」として、また、平成 17 年 10 月には隣接町であった阿寒町、音別町と合併し、道東の拠点都市として、なお一層の飛躍と発展を続けている。

## 2 釧路市の姿

白い霧のベールに覆われた街に、幻想的な霧笛の音が夏を運ぶ、ロマンチックなまち釧路市は、北緯 43 度、東経 144 度に位置し、1362.75 k<sup>2</sup>m<sup>2</sup>で南は太平洋に面し広大な面積と背後に原始の姿を伝える釧路湿原国立公園、特別天然記念物である「タンチョウ」と「マリモ」が生息する阿寒国立公園の 2 つの国立公園が広がる雄大な自然を有する、道東の社会、経済、文化の中心都市として、着実な発展を続けています。

産業、経済の発展を支える東北海道における最大の重要港湾釧路港を有し、豊潤な海をもつ釧路市は水産基地として全国にその名が知られ、釧路沖は水産資源の宝庫として四季を通じ全国各地の漁船が集まり水揚げが行われている。また、海底下での石炭採掘技術と保安技術は世界一を誇り国の炭鉱技術移転計画により東南アジアを中心に世界各国から研修生を受け入れ、採炭、保安技術援助に務めている。また、炭鉱とともに歴史のある製紙工場は主に新聞紙、ダンボール原紙などを生産しています。

2 つの国立公園には、特別天然記念物の「タンチョウ」や「マリモ」などをはじめ氷河期時代の生き残りといわれるキタサンショウウオや幻の魚といわれるイトウなど、約 2,000 種もの貴重な動植物の生息地でもあります。

北国釧路は、スケート競技やアイスホッケー競技において、オリンピック選手を多数輩出するなど「氷都くしろ」としても知られています。

平成 6 年 10 月には国際会議観光都市の認定を受け、国際観光都市への取り組みを進め、中心街のウォーターフロント地区では各種機能の集積をはかり、市民や街を訪れた人々がふれあうことのできる、親水性を活かした個性的都市型遊空間の創造を進めるとともに、国際性を重視した地域に開かれた教育文化活動の充実に取り組み、新たな鼓動を刻んでいます。

気候は、春から夏にかけて釧路名物の霧が発生しますが、秋から冬にかけては晴天が続き、北国としては降雪量の少なさも特徴になっています。

自然と共生する世界に開かれた臨海交流都市、国際観光都市をめざす釧路の姿です。

### 3 釧路市の人口・世帯数

調査年月日	区 分	人 口	世 帯 数
平成 20 年 12 月 31 日		1 8 8 , 7 8 0 人	9 3 , 1 0 5 世帯

### 4 釧路市の人口・世帯数の推移

年 別	面積(k㎡)	世 帯 数	人 口			摘 要 (10月1日)
			男	女	計	
大正 14 年	46.74	8,463	22,297	20,036	42,333	第 2 回国勢調査
昭和 5 年	46.74	9,522	28,081	23,505	51,586	第 3 回 "
" 10 年	46.74	10,237	30,014	26,156	56,170	第 4 回 "
" 15 年	46.74	11,538	33,700	29,480	63,180	第 5 回 "
" 22 年	46.74	12,412	31,197	30,171	61,368	臨 時 "
" 25 年	212.02	18,077	48,003	45,354	93,357	第 7 回 "
" 30 年	212.97	23,604	60,947	58,589	119,536	第 8 回 "
" 35 年	212.92	33,779	76,878	73,746	150,624	第 9 回 "
" 40 年	212.92	44,853	87,322	86,783	174,105	第 10 回 "
" 45 年	217.66	54,680	94,700	97,248	191,948	第 11 回 "
" 50 年	217.66	63,606	101,530	105,310	206,840	第 12 回 "
" 55 年	218.34	70,205	105,371	109,323	214,694	第 13 回 "
" 60 年	218.78	72,230	104,534	110,011	214,545	第 14 回 "
平成 2 年	221.29	74,251	99,179	106,460	205,639	第 15 回 "
" 7 年	221.46	77,580	95,994	103,329	199,323	第 16 回 "
" 12 年	221.61	79,796	91,694	100,045	191,739	第 17 回 "
" 17 年	1362.75	91,959	93,300	101,795	195,095	平成17年10月11日

## 5 市勢と現有消防勢力の対比

<本部・署>

年別	区分	消防職員 1 名に対する			署・支署に対する			消防車 1 台に対する		
	職員数	面積	世帯	人口	面積	世帯	人口	面積	世帯	人口
平成 16	278	0.79	315	675	27.70	10,938	23,437	20.14	7,954	17,045
平成 17	354	6.04	273	579	178.0	8,048	17,074	125.7	5,681	12,053
平成 18	352	6.07	276	578	178.0	8,100	16,954	152.6	6,943	14,532
平成 19	352	6.07	276	572	178.0	8,110	16,767	133.5	6,083	12,575
平成 20	349	6.12	280	570	178.0	8,132	16,572	133.5	6,099	12,429

平成 17 年 10 月 11 日より白糠町より消防事務委託を受ける。

平成 20 年 12 月 31 日現在

署・支署数 12 ヶ所、

車両 水槽付ポンプ車 16 台

白糠町 人口 10,080 人、世帯数 4,483 世帯、面積 773.75 km<sup>2</sup>

<消防団>

年別	区分	消防団員 1 名に対する			1 ヶ分団に対する			消防車 1 台に対する		
	団員数	面積	世帯	人口	面積	世帯	人口	面積	世帯	人口
平成 16	327	0.68	268	575	15.83	6,250	13,393	13.85	5,469	11,719
平成 17	493	2.8	187	395	75.7	5,116	10,827	46.99	3,176	6,720
平成 18	491	2.8	189	393	75.7	5,105	10,717	46.99	3,196	6,652
平成 19	482	2.8	193	396	75.7	5,157	10,605	46.99	3,201	6,582
平成 20	467	2.9	199	404	75.7	5,172	10,488	46.99	3,211	6,510

分団数 18 ヶ所

車両 ポンプ車 21 台、小型ポンプ積載車 8 台

## 6 釧路市の気象概況

### (1) 月別気象概況

区 分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
平 均 ま た は 合 計	平均気圧(現地)hPa	1009.0	1006.0	1010.7	1010.9	1008.5	1007.4	1006.0	1006.9	1006.8	1012.1	1008.4	1007.9	1008.4
	平均気圧(海面)hPa	1014.2	1011.1	1015.7	1015.9	1013.4	1012.3	1010.7	1011.6	1011.5	1016.9	1013.4	1012.9	1013.3
	平均気温	-6.4	-4.7	0.7	4.3	8.1	11.6	16.0	17.7	17.1	11.6	4.0	0.7	6.7
	日最高気温の平均	-1.4	0.0	4.7	8.7	12.4	15.5	19.4	20.8	20.9	15.7	8.4	4.7	10.8
	日最低気温の平均	-12.1	-9.6	-2.7	0.4	4.9	8.8	13.5	15.3	13.5	6.9	-0.7	-4.3	2.8
	蒸気圧 %	2.4	2.9	5.2	6.0	8.9	11.8	16.3	17.3	16.3	10.5	5.9	4.9	9.1
	相対湿度 %	64	67	80	79	82	87	90	85	81	76	69	70	78
	降水量 mm	8.0	9.0	56.0	53.5	103.0	75.5	91.0	176.0	115.0	83.5	34.5	33.0	838.0
	日照時間 h	220.6	208.8	167.4	158.2	156.3	138.3	111.5	94.5	175.3	174.7	173.4	139.9	1918.9
	日照率 %	76	69	46	40	35	30	24	22	47	51	59	50	46
	平均雲量	3.2	4.4	6.6	6.8	7.7	8.4	8.7	8.9	6.2	6.2	4.4	5.6	6.4
	平均風速 m/s	5.0	5.9	4.9	4.8	5.2	4.3	3.4	4.3	4.7	5.1	6.0	5.7	4.9
	降雪の深さの合計 cm	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	18
	最多風向	北北東	北北東	北北東	北北東	北東	北東	南南東	南	南	北北東	西	北北東	北北東
日 数	霧	0	0	8	15	11	18	21	7	13	9	4	2	108
	日平均雲量 < 1.5	7	8	5	1	1	0	0	0	3	3	8	5	41
	日平均雲量 8.5	2	4	12	9	14	20	24	22	11	7	5	6	136
	不照	1	2	6	5	6	7	8	13	4	2	2	4	60
	雪	6	13	13	2	0	0	0	0	0	0	4	8	46
	雷	0	0	0	0	0	1	3	1	0	1	0	0	6
	降水量 0.0mm以上	6	13	18	12	21	18	22	23	16	17	15	16	197
	降水量 0.5mm以上	3	2	8	6	11	8	11	12	8	7	5	7	88
	降水量 1.0mm以上	1	2	4	6	8	7	11	10	6	6	5	7	73
	降水量 10.0mm以上	0	0	2	2	3	3	4	5	2	2	1	0	24
	最大風速10.0m/s以上	12	12	12	8	12	4	3	4	10	11	19	18	125
	平均気温 0 未満	31	29	10	1	0	0	0	0	0	0	4	14	89
	日最高気温 25 以上	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
極 値	最高気温	1.6	3.9	8.8	17.8	20.0	22.4	25.4	29.2	27.6	18.8	14.7	11.8	29.2
	最低気温	-19.4	-16.7	-7.2	-5.7	-0.5	5.8	7.7	10.8	4.1	-2.1	-8.9	-12.1	-19.4
	最小湿度 %	28	29	32	14	27	47	52	40	26	31	21	31	14
	日降水量の最大値 mm	7.0	6.5	38.5	26.5	37.0	30.5	18.0	68.5	78.0	41.0	22.0	9.5	78.0
	1時間降水量の最大値 mm	1.0	1.5	7.0	4.5	11.0	9.5	7.0	18.0	23.0	18.0	5.5	3.5	23.0
	積雪の最大値 cm	12	1	0	0	-	-	-	-	-	-	-	8	12.0
	最大風速 m/s	17.4	21.0	19.8	23.3	23.2	14.4	11.5	13.1	17.0	18.0	22.2	18.8	23.3
	最大瞬間風速 m/s	27.4	30.4	21.3	34.4	30.2	19.2	14.8	17.5	23.8	24.1	29.1	23.6	34.4
有感地震	0	0	1	2	2	2	1	2	3	2	1	2	18	
季 節		霜				雪			結氷			積雪		
	初日	平成 20 年 10 月 16 日				平成 20 年 11 月 8 日			平成 20 年 10 月 14 日			平成 20 年 12 月 8 日		
	終日	平成 20 年 4 月 18 日				平成 20 年 4 月 12 日			平成 20 年 5 月 10 日			平成 20 年 4 月 2 日		
注	1	この気候表は、釧路地方気象台が独自に作成したものです。												
	2	一般に「降雪の深さ」、「最深積雪」の年の統計及び季節の初日・終日は、前年秋から当年春の期間となります。												

(2) 釧路南西部における気象注意報・警報発表状況

ア 気象注意報

種類		月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	合計
注             報	大雨		0	3	0	0	3
	大雪		1	0	0	0	1
	風雪		2	1	13	0	16
	雷		0	14	0	0	14
	強風		14	11	0	0	25
	波浪		11	12	19	5	47
	融雪		0	0	3	18	21
	洪水		0	3	4	12	19
	高潮		4	1	0	0	5
	濃霧		6	22	5	0	33
	乾燥		0	0	1	3	4
	なだれ		0	0	19	15	34
	低温		0	0	0	0	0
	霜		0	4	0	0	4
	着氷		1	0	0	0	1
着雪		3	1	0	1	5	
四半期別発表回数			42	72	64	54	232

注意報（釧路）の発表回数（切り替えを含まず）

イ 気象警報

種類		月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	合計
警     報	暴風雪		0	1	0	0	1
	大雨		0	2	1	0	3
	洪水		0	2	1	0	3
	暴風		1	1	0	0	2
	大雪		0	0	0	0	0
	波浪		1	1	0	0	2
	高潮		0	0	0	0	0
四半期別発表回数			2	7	2	0	11

警報（釧路）の発表回数（切り替えを含まず）

(3) 釧路中部における気象注意報・警報発表状況

ア 気象注意報

種類		月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	合計
注               報	大雨		0	7	0	0	7
	大雪		2	1	0	0	3
	風雪		3	1	13	0	17
	雷		0	15	0	0	15
	強風		10	3	0	1	14
	波浪		0	0	20	5	25
	融雪		0	0	0	8	8
	洪水		0	3	0	0	3
	高潮		0	0	0	0	0
	濃霧		3	10	3	0	16
	乾燥		0	0	0	0	0
	なだれ		4	1	13	13	31
	低温		0	0	0	0	0
	霜		0	5	0	1	6
	着氷		0	0	0	0	0
	着雪		3	1	5	3	12
四半期別発表回数			25	47	54	31	157

注意報（釧路）の発表回数（切り替えを含まず）

イ 気象警報

種類		月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	合計
警      報	暴風雪		0	0	0	0	0
	大雨		0	1	1	0	2
	洪水		0	1	1	0	2
	暴風		0	0	0	0	0
	大雪		0	0	0	0	0
	波浪		0	0	0	0	0
	高潮		0	0	0	0	0
四半期別発表回数			0	2	2	0	4

警報（釧路）の発表回数（切り替えを含まず）



# 総 説

—— 釧路市消防の主要施策 ——



# 総 説

## —— 釧路市消防の主要施策 ——

災害に関しましては、6月に最大震度6強を観測した岩手・宮城内陸地震が発生したほか、8月には東海地方・関東地方を中心に豪雨（平成20年8月末豪雨）が襲い、多くの尊い生命や貴重な財産が奪われております。

当市においては地震多発地帯であることから、釧路市防災総合訓練、防災ワンデー等を毎年開催し、釧路市民と一体となって「災害に強い町」をスローガンとして防災体制の強化を図っております。また、平成20年4月より釧路市消防団、阿寒消防団、音別消防団が統合され、地域住民の防災体制により一層の万全を期したところです。

近年著しく変化する消防を取り巻く状況として、平成20年7月に開催されました北海道洞爺湖サミット消防特別警戒へ、当市からも消防車両及び職員を派遣したところであります。また、平成18年の「消防組織法の一部を改正する法律」の公布、施行により市町村消防の広域化が進められております。北海道においても道内を21の圏域に区割りする計画を盛り込んだ消防広域化推進計画が平成20年に策定されました。広域化については、平成24年度末までの実現を目指し、スケールメリットを活かして今まで以上の消防サービスの充実を図り、思いやりがあり、安心して暮らせるまちづくりに向けて推進していきます。

## 主 要 施 策

### 1 災害対策の推進

#### (1) 地域防災力の向上

地震・津波等の災害に対する啓発・教育の推進を図るため、市民防災センターを活用し、防災ワンデー等のイベントの実施により市民と一体となって防災力の向上に努める。

#### (2) 災害用防災資機材の整備、拡充

あらゆる災害に備えて、備蓄している防災資機材の整備、拡充を図る。

#### (3) 避難体制の確立

地域防災無線や広域避難場所等の標識を整備し、災害から素早く安全に避難できる体制の確立を図る。

### 2 消防体制の充実強化

#### (1) 施設の拡充

消防組織体制、救急体制の充実強化を図るとともに、消防分団の統合等により地域防災力の向上を図る。

#### (2) 装備の拡充

消防車両の更新により、機動性の向上及び適正な消防力の維持に努める。

防火衣、空気呼吸器及び空気呼吸器用ポンベの更新等により、装備の軽量化等の機能向上を図り、消防活動の対応力強化及び安全性の向上を図る。

#### (3) 消防体制の拡充

消防通信機器整備の推進により、より迅速な消防活動開始に努める。

消防職・団員の知識及び、技術向上のため訓練研修に努める。

### 3 救急体制の充実強化

#### (1) 装備の拡充

高規格救急車の更新により、救急装備の高度化を図る。

#### (2) 救急体制の拡充

救急資格者養成の推進。

A E Dを配置した消防隊と救急隊による連携( P A連携 )体制を構築し、救命率の向上に努める。

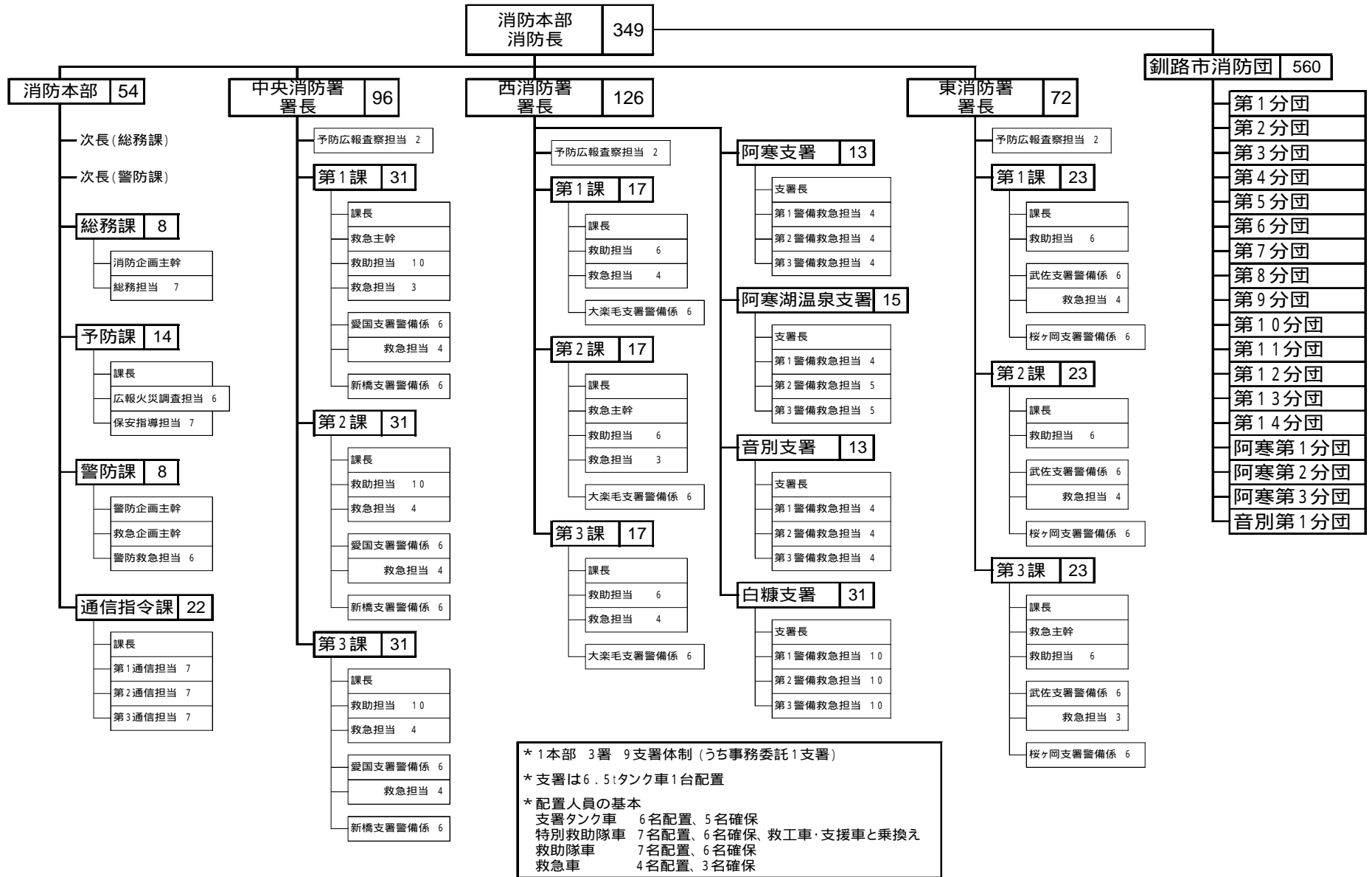
# 総務編



# 1 消防本部・署・支署の所在地

	所在地	電話番号	建築面積 (㎡)	延面積 (㎡)	構造	建築 年月日
消防本部	釧路市南浜町4番8号	22-2156	1,670.63	5,766.34	鉄筋コンクリート造 4階建	平成 9.6.4
消防団本部	" "	23-0424	"	"	"	"
中央消防署	" "	23-0430	"	"	"	"
新橋支署	" 新橋大通3丁目1番6号	22-0353	213.03	303.03	コンクリートブロック造 一部2階建	昭和 46.7.15
愛国支署	" 愛国東4丁目36番12号	37-2422	328.05	328.05	鉄筋コンクリート造 平屋建	昭和 55.12.20
釧路市消防団 第5分団	" 寿1丁目1番8号	22-5089	141.75	232.47	木造モルタル造 2階建	昭和 46.1.
釧路市消防団 第6分団	" 新富町9番20号	22-3775	278.64	411.48	木造モルタル造 2階建	昭和 51.11.
釧路市消防団 第7分団	" 川上町6丁目2番地	24-2381	141.76	242.24	木造モルタル造 2階建	昭和 23.1.
釧路市消防団 第8分団	" 新栄町10番16号	22-4255	238.14	342	木造モルタル造 2階建	昭和 46.7.
西消防署	" 鳥取南4丁目4番22号	51-1658	538.8	648.5	コンクリートブロック造 2階建	昭和 46.12.1
大楽毛支署	" 大楽毛2丁目4番16号	57-4808	329.67	329.67	木造モルタル造 平屋建	昭和 50.12.1
釧路市消防団 第9分団	" 鳥取大通1丁目5番4号	51-5376	181.5	363	木造モルタル造 2階建	昭和 40.7.
釧路市消防団 第12分団	" 大楽毛4丁目6番2号	57-8150	151.2	270.81	木造モルタル造 2階建	昭和 42.10.
釧路市消防団 第13分団	" 山花14線141番地	56-2508				
阿寒支署	" 阿寒町北新町1丁目5番1号	66-3350	436.7361	619.5247	鉄骨造 一部2階建	昭和 49.12.15
阿寒消防団 第1分団	" 阿寒町仲町2丁目6番23号		117	117	鉄骨造 平屋建	昭和 58.12.12
阿寒消防団 第3分団	" 阿寒町徹別市街本通2丁目		117	117	鉄骨造 平屋建	昭和 60.11.28
阿寒湖温泉 支署	" 阿寒町阿寒湖温泉3丁目8番1号	67-2702	884.027	1,317.65	鉄筋一部コンクリート 2階建	平成 3.2.5
阿寒消防団 第2分団	" "				阿寒湖温泉支署に記載	
音別支署	" 音別町中園1丁目78番地	(01547) 6-2519	611.08	1132.55	鉄筋コンクリート造 2階建	平成 19.7.1
音別消防団	" 音別町中園1丁目78番地				音別支署に記載	
白糠支署	白糠町東1条南3丁目2番地20	(01547) 2-2053	479.42	949.43	鉄骨造 2階建	昭和 45.12.
東消防署	釧路市千歳町3番13号	41-5646	701.79	829.29	鉄筋コンクリート造 2階建	昭和 52.12.21
桜ヶ岡支署	" 桜ヶ岡4丁目3番30号	91-6455	298.34	398.96	鉄筋コンクリート造 一部2階建	昭和 57.12.13
武佐支署	" 武佐3丁目1番25号	46-3453	365.31	430.11	木造モルタル造 一部2階建	昭和 49.11.15
釧路市消防団 第1分団	" 南大通6丁目1番8号	41-4741	217.08	158.76	木造モルタル造 平屋建	昭和 48.12.
釧路市消防団 第2分団	" 浦見7丁目3番2号	41-2382	230.85	149.85	木造モルタル造 平屋建	昭和 47.12.
釧路市消防団 第3分団	" 千歳町3番13号	41-5646			東消防署に記載	
釧路市消防団 第4分団	" 緑ヶ岡1丁目21番1号	41-3297	499.42	283.99	鉄筋コンクリート造 2階建	平成 11.12.
釧路市消防団 第10分団	" 武佐3丁目1番25号	46-3454			武佐支署に記載	
釧路市消防団 第11分団	" 桜ヶ岡4丁目3番30号	91-4131			桜ヶ岡支署に記載	
釧路市消防団 第14分団	" 桂恋172番地	91-6807			旧桂恋小学校の一部を 使用	

## 2 消防の機構



\* 1本部 3署 9支署体制(うち事務委託1支署)  
 \* 支署は6.5tタンク車1台配置  
 \* 配置人員の基本  
 支署タンク車 6名配置、5名確保  
 特別救助隊車 7名配置、6名確保、救工車・支援車と乗換え  
 救助隊車 7名配置、6名確保  
 救急車 4名配置、3名確保



### 3 消防職員の人員・平均年齢

階級等 区分	合計	正 監	監	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	士	事 務 吏 員
現 在 員	349	1	4	21	55	119	73	1	74	1
平均年齢	42.4	55.0	58.5	57.4	54.8	50.8	33.2	31.0	25.0	57.0

### 4 職員定数の状況

平成19年度定数	増 減 数			平成20年度定数
	減 員	増 員	差 引	
352人	3	-	3	349人

は減少を示す。

## 5 消防本部・署・支署の人員配置

階級等		合計	正監	監	司令長	司令	司令補	士長	副士長	消防士	事務吏員
区分											
合計		349	1	4	21	55	119	73	1	74	1
消防本部	小計	55	1	1	5	10	19	13		5	1
	消防長	1	1								
	総務課	9			1	2	1	4			1
	予防課	14			1	2	7	4			
	警防課	9		1	2	3	2	1			
	通信指令課	22			1	3	9	4		5	
中央消防署	小計	96		1	4	14	29	20		28	
	中央消防署	48		1	4	5	10	13		15	
	新橋支署	18				3	8	2		5	
	愛国支署	30				6	11	5		8	
西消防署	小計	126		1	8	20	45	27	1	24	
	西消防署	36		1	4	5	12	6		8	
	大楽毛支署	18				3	8	1		6	
	阿寒支署	13			1	3	3	4		2	
	阿寒湖温泉支署	15			1	2	4	4	1	3	
	音別支署	13			1	3	4	4		1	
	白糠支署	31			1	4	14	8		4	
東消防署	小計	72		1	4	11	26	13		17	
	東消防署	24		1	3	3	8	7		2	
	桜ヶ岡支署	18				3	9			6	
	武佐支署	30			1	5	9	6		9	

## 6 消防職員採用・退職・昇任

階級等 区分	正監	監	司令長	司令	司令補	士長	副士長	消防士	事務 吏員	計
採用								4		4
退職	1		1	1	5					8
昇任			1	1	3	12				17
派遣等(入)	1					1				2
派遣等(出)					1					1

派遣等には消防本部と市長部局との出入や、北海道への派遣等を含む

## 7 消防財政

釧路市の消防は社会環境の変化、都市構造の変貌に伴い、年々複雑多様化する災害に対処するため、消防力の充実強化を図っているところである。

平成20年は、北海道洞爺湖サミット消防特別警戒への職員派遣や、タンク車及び救急車の更新配置をするなど設備の充実を図っている。

また、消防職団員の教育機関への入校や講師派遣、他部局間との人事交流を実施、人材育成を積極的に推進し、各種災害に的確に対応できるよう万全を期しているところであり、これに要する経費は次のとおりである。

### (1) 過去3カ年度消防費当初予算額

区分 年度	市一般会計 予 算 A (千円)	消防予 算 B (千円)	B/A × 100 (%)	市民一人当たり の消防費 (円)	市民一世帯当 たりの消防費 (円)
H18	115,000,000	4,333,132	3.8	22,461	46,744
H19	96,500,000	3,230,524	3.3	16,924	34,799
H20	95,100,000	2,885,164	3.0	14,509	29,565

### (2) 年度別消防予算

区分 年度	予 算 額 (千円)				
	当初予算額	内 訳			
		常備消防費	非常備消防費	施設費	人件費
H18	4,333,132	299,410	113,264	1,216,268	2,704,190
H19	3,230,524	237,830	110,246	254,051	2,628,397
H20	2,885,164	233,798	111,458	119,908	2,420,000



# 警 防 編



## 1 消防力の現況

### (1) 消防職員の現況

区 分	消防本部	中央署	西 署	東 署	合 計
警 防 要 員		69	39	57	165
救 急 要 員		24	12	12	48
警 防・救 急 要 員			68		68
予 防 要 員	14	2	2	2	20
そ の 他 の 要 員	41	1	5	1	48
合 計	55	96	126	72	349

### (2) 消防団員の現況

区 分	警 防 要 員	本 部 要 員	合 計
釧 路 市 消 防 団	460	7	467

### (3) 消防水利（地域別消防水利施設現勢表）

地区	水利	公 設			
	消 火 栓	防 火 水 槽 (40m <sup>3</sup> 級)	耐 震 性 貯 水 槽 (100m <sup>3</sup> 級)	指 定 水 利	計
大 楽 毛	194	11			205
鉄 西	247	32		1	280
白 糠	126	43			169
阿 寒	85	12			97
阿 寒 湖 温 泉	25	8		1	34
音 別	22	26			48
愛 国	146	31			177
鉄 北	225	36		1	262
橋 北	117	52	1	2	172
橋 南	310	93	1	3	407
春 採	146	31			177
白 樺	37	2			39
合 計	1,680	377	2	8	2,067





## (2) 出動計画

### ア 消防部隊出動計画

市街地における防火対象物の建ぺい率、構造率、年間平均風速、消防水利、消防車の走行速度等々、燃焼消火のエネルギー関係を科学的に分析し、次の基準で出動計画を決めている。

### (ア) 火災出動計画

出動区分	出動台数	出動基準
第1出動	9台～10台	火災を覚知した時
第2出動	13台～14台	先着指揮官の要請又は異常気象時
第3出動	20台～22台	現場指揮官の要請
特命出動	必要台数	災害状況に応じて指揮官の要請

### (イ) 救助救急出動計画

覚知時 3台～5台(救急車含む)

特命出動 必要数

### (ウ) 警戒出動計画

覚知時 1台～2台

### イ 非常災害時出動計画

地震災害時、烈風時火災、豪雪時火災、水災等、それぞれの災害を分析し釧路市消防警防規程及び釧路市消防警防規程運用要綱を定め、消防部隊の強化を図っている。

### ウ 石油コンビナート等特別防災区域内出動計画

当市の石油貯蔵基地は石油コンビナート等災害防止法に基づき西港区域が特別防災区域として指定されており、北海道石油コンビナート等防災計画にのっとり、化学車等を基本に特別防災区域出動計画を定めている。

## (3) 災害活動に対する民間協力体制の確立

消防は隊員とこれが装備する資機材によって、各種災害に対応しなければならない。しかし、消防が有する装備と資機材のみによって対応しがたい場合があり、その対応策が強く望まれていた。

このような時に、市内の特殊資機材を有する民間企業が消防の行う活動に協力する目的をもって『釧路市救助協力会』が発足し、釧路市民を災害から守る防災対策が一層強化された。

ア 設立 昭和56年4月22日

イ 組織 6部会 24事業所

- ・クレーン部会(6事業所)
- ・重機部会(5事業所)
- ・鉄工部会(2事業所)
- ・解体部会(2事業所)
- ・鳶工部会(7事業所)
- ・潜水部会(2事業所)

## (4) 林野火災及び大規模災害に対処する防災体制の確立

釧路市愛国191の1に『釧路市空中消火等補給基地』(ヘリコプター離着陸広場 13,879,48 m<sup>2</sup>、40m<sup>3</sup>級貯水槽1基、資機材保管施設1棟、消火剤散布装置5基)が昭和61年11月29日に完成を見た。この基地完成により、湿原、山林火災の消火及び災害時の救助救急等防災対策が一層強化された。

### 3 火災・警戒出動概要

平成 20 年中の出動状況は 91 件の火災が発生し、車両延べ 521 台、職団員延べ 2,698 名が出動し消防活動を行った。その概要は次表のとおりである。

#### ( 1 ) 火災出動状況

区分 月	火災件数	出 動 台 数 ( 台 )			出 動 人 員 ( 名 )		
		消 防 署	消 防 団	計	消 防 署	消 防 団	計
1 月	4	12	2	14	62	22	84
2 月	12 (3)	57	10	67	233	124	357
3 月	11 (1)	90	20	110	337	224	561
4 月	15 (2)	42	6	48	195	84	279
5 月	9	43	8	51	182	80	262
6 月	5 (1)	23	4	27	94	51	145
7 月	5 (1)	26	7	33	110	63	173
8 月	9 (1)	54	10	64	201	100	301
9 月	9 (1)	30	4	34	113	52	165
10 月	6	31	5	36	132	61	193
11 月	5 (1)	20	6	26	81	37	118
12 月	1	9	2	11	38	22	60
合 計	91 (11)	437	84	521	1,778	920	2,698

( )は、白糠町の内数

#### ( 2 ) 過去 5 年間の火災出動状況の推移

区分 分年	火災件数	出 動 台 数 ( 台 )			出 動 人 員 ( 名 )		
		消 防 署	消 防 団	計	消 防 署	消 防 団	計
平 成 16 年	90	428	97	525	1,885	1,218	3,103
平 成 17 年	89(8)	412	88	500	1,715	1,005	2,720
平 成 18 年	80(7)	428	103	531	1,839	1,207	3,046
平 成 19 年	113(8)	529	108	637	2,281	1,128	3,409
平 成 20 年	91(11)	437	84	521	1,778	920	2,698

( )は、白糠町の内数

(3) 過去5年間の警戒出動状況及び推移

年区分	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
出動件数	508	506 (37)	573 (44)	506 (24)	692 (44)
集合煙突	5	5	6 (1)	1	8 (1)
焚き火	0	8	17 (2)	6	9
電柱	0	0	1	6	4
異常燃焼	7	6	11	9	17 (1)
油関係	108	123 (4)	150 (6)	135 (1)	101 (4)
ガス関係	10	8 (1)	5	7	8
自火報	65	77 (8)	53 (2)	56 (6)	53 (3)
漏電警報器	2	0	4	2	2
非常警報	2	1	3	4	
緊急ボタン	6	3 (2)	10 (5)	17 (1)	19
危険排除				59 (3)	223 (9)
その他	303	275 (22)	313 (28)	204 (13)	248 (26)
出動台数	770	796 (60)	826 (45)	820 (33)	1,114 (85)
出動人員	3,614	3,703 (191)	3,951 (141)	3,702 (141)	5,279 (354)

( )は、白糠町の内数

#### 4 救助出動概要

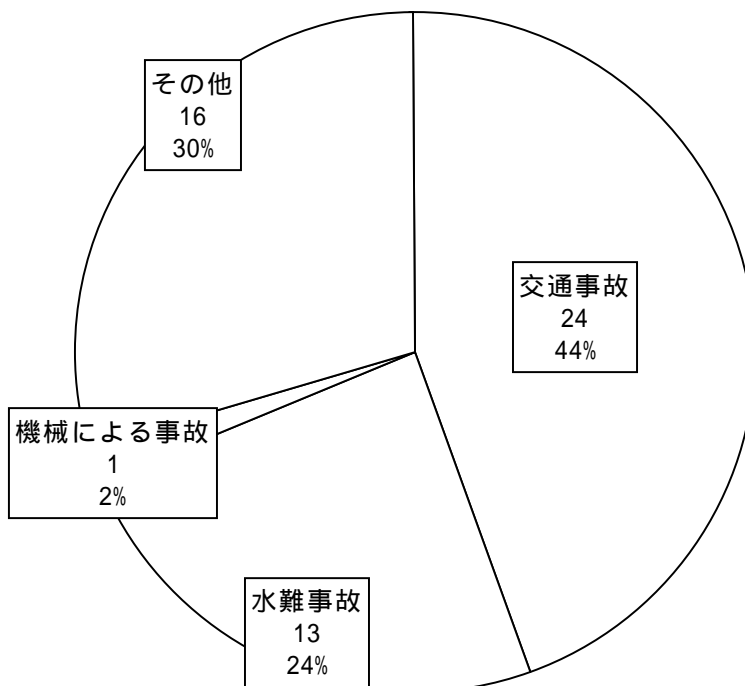
平成20年中の救助出動は54件発生し、車両延べ252台、人員延べ1,075名が出動し救助活動を行った。その概要は次表のとおりである。

##### (1) 前年比救助出動状況

区分	年	平成19年		平成20年	
		出動件数	救助人員	出動件数	救助人員
出動件数		75 (8)	118 (6)	54 (5)	47 (3)
交通事故		49 (8)	91 (6)	24 (2)	28 (1)
水難事故		15	13	13 (2)	8 (2)
自然災害					
機械による事故		1	1	1	1
ガス及び酸欠による事故				1	
建物等による事故				2	3
爆発事故					
その他		10	13	13 (1)	7
出動台数		322	(28)	252	(24)
出動人員		1,288	(123)	1,075	(92)

( )は、白糠町の内数

##### (2) 事故種別救助出動状況



(3) 月別救助出動状況

区分	月												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
出 動 件 数	1	6	4	9	4	5	9	4	3	2	3	4	54
交 通 事 故		2	1	7	1	2	5	2	1	1		2	24
水 難 事 故		2			2	2	2	1	1	1	1	1	13
自 然 災 害													
機 械 に よ る 事 故											1		1
ガ ス 及 び 酸 欠 に よ る 事 故						1							1
建 物 等 に よ る 事 故				1				1					2
爆 発 事 故													
そ の 他	1	2	3	1	1		2		1		1	1	13
出 動 台 数	3	28	31	35	21	24	35	19	13	7	15	21	252
出 動 人 員	16	114	182	158	73	99	134	73	55	42	53	76	1,075
救 出 人 員		9	3	8	2	4	4	4	3	3	2	5	47

(4) 署々別救助出動状況

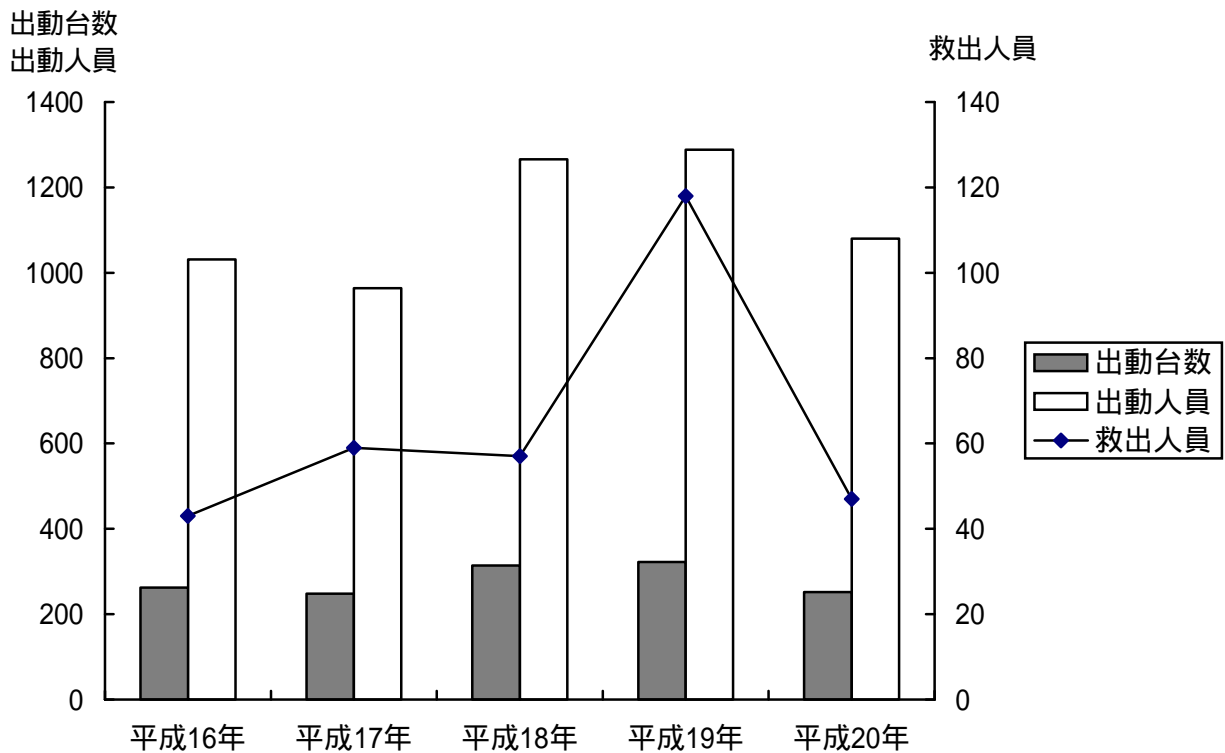
区分	月			
	中央消防署	西消防署	東消防署	合計
出 動 件 数	17	29 (5)	8	54 (5)
交 通 事 故	8	16 (2)		24 (2)
水 難 事 故	4	5 (2)	4	13 (2)
自 然 災 害				
機 械 に よ る 事 故		1		1
ガ ス 及 び 酸 欠 に よ る 事 故		1		1
建 物 等 に よ る 事 故	1	1		2
爆 発 事 故				
そ の 他	4	5 (1)	4	13
出 動 台 数	94	117 (24)	41	252 (24)
出 動 人 員	429	508 (92)	138	1,075 (92)
救 出 人 員	18	23 (3)	6	47 (3)

( )は、白糠町の内数

(5) 過去5年間の救助出動状況の推移

区分	月	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
出 動 件 数		57	77 (13)	78 (11)	75 (8)	54 (5)
交 通 事 故		26	52 (12)	55 (8)	49 (8)	24 (2)
水 難 事 故		17	12	10 (1)	15	13 (2)
自 然 災 害						
機 械 に よ る 事 故		2		5 (2)	1	1
ガ ス 及 び 酸 欠 に よ る 事 故						1
建 物 等 に よ る 事 故		1	2	3		2
爆 発 事 故						
そ の 他		11	11 (1)	5	10	13 (1)
出 動 台 数		262	248 (15)	314 (18)	322 (28)	252 (24)
出 動 人 員		1,031	964 (44)	1,266 (71)	1,288 (123)	1,075 (92)
救 出 人 員		43	59 (4)	57 (4)	118 (6)	47 (3)

( )は、白糠町の内数



## 5 消防通信

消防通信は、有線通信及び無線通信に大別され、それぞれの法令（有線電気通信法・電波法）に基づき運用されている。

### （１）有線通信施設

区 分	種 別	施 設 数	適 用	
有 線 電 話	消 防 救 急 指 令 台	119番回線	4(0)回線	I N S回線（一般・携帯・I P全て重畳）、同時8回線
		一斉指令・署所端末回線	40(0)回線	署・支署・救急 - 音声指令・指令電送
		一斉指令・署所端末回線白糖用	1(1)回線	D A 1 2 8
		指令台用局線	2(0)回線	I N S回線、同時4回線
		順次指令用局線	2(0)回線	I N S回線、同時4回線
		孤立防止回線	2(0)回線	衛星回線（受信専用2）
	一 般	加入電話	27(2)回線	本部・署・支署、1～12分団（I N S回線、電話・FAX）
		災害情報自動案内	1(0)回線	災害等案内（NTT側設備で100回線）
		内線電話	259(12)回線	本部・署・支署、1～12分団（NTT専用線）
		北海道総合行政情報ネットワーク専用電話	2(1)回線	本部総務課、白糖支署に設置
市イントラ用光ファイバーを活用し、多重装置で実現（指令回線・指令電送・内線回線・0A回線等）				
白糖支署DA64回線で指令回線・指令電送・内線回線・0A回線等に活用				
（ ）内は白糖支署内数				

### （２）無線通信施設

区 分 ・ 種 別	施 設 数	摘 要			
無 線 設 備	基 地 局	8局(1局)	25W(本部) - 移動局、受令機に対する災害指令 10W(中央消防署・西消防署・東消防署・阿寒支署・阿寒湖支署・音別支署・白糖支署) 陸上移動局に対する通信		
		固 定 局	8局(1局)	25W(本部) - 固定局に対して通信 10W(中央消防署・西消防署・東消防署・阿寒支署・阿寒湖支署・音別支署・白糖支署) 固定局に対して通信 5W - 署・支署への受信設備用	
	陸上移動局		支署及びセンター	14局	支署 5局, 地区防災センター 9局
			車 載	101局(17局)	消防車 87局(15局), 救急車 12局(2局), 注) その他 2局
	受 信 機	携 帯	123局(18局)	10W 4局, 5W 102局(18局), 1W 17局	
		指 令 端 末 用 受 信 機	15台	署・支署 14台, 職員住宅 1台	
	そ の 他	受 令 機	197台	署・支署 108台, 分団 63台, 本部 26台	
携 帯 電 話		16台(4台)	通信指令課, 警防課, 中央救急, 西救急, 愛国救急, 武佐救急, 白糖×4, 阿寒, 音別, 阿寒湖×2, 市立病院, 医師会病院		
衛 星 携 帯 電 話		4台(1台)	救急阿寒湖, 救急音別, 救急白糖 1、救急阿寒		

（ ）内は白糖支署内数

(3) 無線局チャンネル及び周波数

チャンネル	周波数	通常時	大規模災害時
第1	149.71 Mhz	活動波 2	中央方面本部活動波
第2	152.79 Mhz	同報波	情報波
第3	150.73 Mhz	全国共通波 1	
第4	150.35 Mhz	メイン	西方面本部活動波
第5	151.31 Mhz	活動波 3	東方面本部活動波
第6	148.75 Mhz	全国共通波 2	
第7	154.15 Mhz	全国共通波 3	
旧西部波	149.75 Mhz	旧西部消防組合波	
救急波	147.50 Mhz	本部送信	
救急波	143.50 Mhz	救急車両送信	

(4) 災害通報等受付件数

項目	火災	警戒	救助	救急	その他	合計
119番受付	66	411	34	7,876	7,118	15,505
	(9)	(24)	(2)	(439)		(474)
加入電話受付	13	197	9	344	21	584
	(1)	(14)	(2)	(18)		(35)
警察電話受付	1	27	9	100	3	140
	(0)	(1)	(1)	(9)		(11)
無線受付	0	30	0	50	0	80
	(0)	(2)	(0)	(4)		(6)
その他	11	27	2	72	235	347
	(1)	(3)	(0)	(17)		(21)
合計	91	692	54	8,442	7,377	16,656
	(11)	(44)	(5)	(487)		(547)

各項目下段( )内の数値は、白糠町の件数で上段の内数

上表(4)災害通報等受付件数のその他の内訳

項目	問合せ	訓練	試験	誤報	いたずら	携帯転送	その他	合計
件数	1,338	1,233	981	755	157	20	2,893	7,377



## 6 研修及び訓練実施状況

### (1) 研修

種別	項 目		対 象 及 び 内 容	期間・回数	人員・時間	
本 部 研 修	資格取得		大型自動車運転免許取得	1回	8人	
			無線従事者免許取得	1回	1人	
			潜水士資格取得	1回	2人	
	派 遣	病 院 実 習		救急救命士就業前研修	1回	1人
				救急救命士資格者	4回	48人
		消防学校		初任教育前期	116日間	4人
				初任教育後期	116日間	4人
				専科教育救急科	38日間	7人
				幹部教育新任消防長研修	4日間	1人
				気管挿管講習(白糠)	12日間	1人
		消防大学		総合教育新任消防長科	8日間	1人
				専科教育救助科	37日間	1人
				専科教育火災調査科	37日間	1人
	市職員研修		釧路市職員研修計画による	9回	9人	
	新規採用職員研修		平成20年度採用職員	2回	3人	
	修	専科研修		上級救命講習	1回	6人
				水難救助特別教育	1回	3人
				予防課程	3回	87人
				警防課程	3回	39人
		特別研修		潜水特別講演	1回	17人
消防職員意見発表会				1回	10人	
消防職団員研究発表会				1回	6件	
所 属 研 修	係 別	消 防 隊 研 修		中央消防署	160回	198時間
				西消防署	198回	787時間
				東消防署	252回	1048時間
	研 修	救 助 隊 研 修		中央消防署	90回	149時間
				西消防署	181回	947時間
				東消防署	115回	614時間
	救 急 隊 研 修		救急資格者研修	912回	1919時間	

## (2) 訓練

種別	項目	対象及び内容	期間・回数	人員・時間	
本部 訓練	演習	春季消防演習	観閲	1回	26台452人
		秋季消防演習	慰霊祭・団競技大会	1回	26台447人
		釧路市防災総合訓練	9月4日	1回	155人
	各種 訓練	水難救助訓練	泳法及び潜水訓練	77回	32人
		消防活動技能訓練	指定された隊員	66回	7人
		警防活動研修訓練	指定された隊員	10日間	10人
		潜水土養成訓練	指定された隊員	6日間	3人
大会	全道消防救助技術訓練指導会	札幌市(7月24日)(障害突破)	1回	8人	
所属 訓練	係別	消防隊訓練	中央消防署	902回	974時間
			西消防署	2167回	7,905時間
			東消防署	941回	2737時間
	専科	救助隊訓練	中央消防署	763回	1,155時間
			西消防署	651回	3016時間
			東消防署	595回	3146時間
		救急隊訓練	救急資格者研修	1194回	1,409時間

## (3) 消防団

種別	項目	対象及び内容	期間・回数	人員・時間	
研修 訓練	資格取得	中型自動車運転免許取得	1回	6人	
		特別研修	女性消防団員研修	1回	31人
	機関教養		2回	36人	
	予防教養		36回	355人	
	幹部教養		1回	25人	
	視察研修	消防団員技能競技大会視察	1回	18人	
		北海道消防学校入校	消防団員普通教育(男)	1回	1人
			消防団員幹部教育	1回	1人
	競技大会	釧路市消防団員	ポンプ自動車・小型ポンプ	7ヶ分団	36人
		北海道消防協会 釧路地方支部消防団員 技能競技大会	弟子屈町(9月13日) ポンプ自動車・小型ポンプ	7ヶ分団	36人
訓練	規律訓練	訓練礼式	18回	123人	
		防ぎよ訓練	競技訓練	77回	770人
			署・団合同訓練	18回	185人

# 救 急 編



## 1 救急活動概要

当市における救急業務は、昭和39年7月の業務開始以来、社会経済活動の進展に伴い年々その体制が整備され、平成17年10月11日の3市町合併及び白糠町の消防事務委託を受け現在8救急隊を運用し、市民の生命・身体を守る上で必要不可欠な行政サービスとして定着している。

そのような中、救急救命士制度の導入や救急隊員の行う応急処置等の範囲の拡大に伴い、全救急隊に高規格救急車の導入および救急隊員の教育訓練体制の整備を図るなど、救急業務の高度化の拡充に取り組んでいるところである。

今後は、関係機関との連携を強化するとともに、市民に対する応急手当の普及啓発活動を推進し、より一層の救命率の向上を目指す。

救急救命士の育成・・・有資格者数49人

高規格救急自動車の導入状況

平成20年度 西救急隊車更新(H20.12.25 運用開始)

平成17年度 阿寒救急隊(H17.12.15 運用開始)

平成16年度 中央救急隊更新(H16.3.1 運用開始)

平成16年度 音別救急隊(H17.1.20 運用開始)

平成15年度 阿寒湖温泉救急隊(H16.2.1 運用開始)

平成14年度 愛国救急隊(H15.3.5 運用開始)

平成13年度 武佐救急隊(H13.5.24 運用開始)

平成12年度 西救急隊(H13.2.27 運用開始)

平成9年度 白糠救急隊(H10.3.2 運用開始)

平成5年度 中央救急隊(H6.1.19 運用開始)

市民による応急手当普及啓発活動の推進

「応急手当の普及啓発活動の推進に関する要綱」(H19.10.11 施行)

メディカルコントロール体制の構築

釧路・根室圏メディカルコントロール協議会の設立(H15.3.26)

医師による包括的指示下での除細動の実施(H15.8.1 開始)

気管挿管可能な救急救命士8名(内3名は白糠支署)を養成し、高度な救急救命処置が行える体制を整備した(H18.8.1 開始)

一般市民が行うAEDを用いた心肺蘇生法の普及に努め、救命率の向上を図った。

救急需要抑制対策として、マスメディア等を活用し、救急車の適正利用をPRした。

### (1) 年次別救急出動件数及び搬送人員

平成20年の救急出動件数は8,442件、搬送人員7,833人で、前年に比べ出動件数においては166件(1.9%)の減少、搬送人員においては250人(3.1%)の減少で、3年連続して減少した。

これは、管轄区域の住民25.4人に1人が救急車によって搬送され、また、1日平均約23件、62分に1回出動したことになる。搬送人員を男女別にみると男性3,763人(48.0%)、女性4,070人(52.0%)となっている。

救急出動件数及び搬送人員の推移をみると、表1のとおりである。

表1 年次別救急出動状況の推移（過去5ヵ年）

年別 区分	S 39 年	H16 年	H17 年	H18 年	H19 年	H20 年
出動件数	145	7,845	9,168 (521)	8,945 (493)	8,608 (495)	8,442 (487)
搬送人員	129	7,487	8,740 (497)	8,442 (465)	8,083 (468)	7,833 (445)
1日平均件数	1.2	21.5	25.1	24.5	23.6	23.1

昭和39年は7月から業務開始。

( )内は白糠支署の出動件数及び搬送人員。

(2) 平成20年中の救急出動状況等

救急出動件数を事故種別ごとにみると、表2のとおり急病が最も多く、次いで転院、一般負傷、交通事故の順となっている。その他統計資料を以下の表に示す。

表2 事故種別救急出動件数の全件数に対する割合

種別 区分	火災	自然 災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他				合計
											転院	医師	資器材	その他	
件数	58	0	10	424	71	50	920	39	156	5,322	1,246	0	0	146	8,442
割合(%)	0.69	0	0.12	5.02	0.84	0.59	10.90	0.46	1.85	63.04	14.76	0	0	1.73	100

表3 月別救急出動状況

月 区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
件数	731	666	717	738	663	640	758	665	700	687	675	802	8,442
搬送人員	681	625	653	685	616	588	718	616	642	632	627	750	7,833

表4 曜日別救急出動状況

曜日 区分	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	合計
日数	52	52	53	53	52	52	52	366
件数	1,176	1,279	1,199	1,214	1,188	1,215	1,171	8,442
1日平均	22.6	24.6	22.6	22.9	22.8	23.4	22.5	23.1

表5 時間別救急出動状況と急病の状況

区分	0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24	合計
件数	479	367	374	536	907	953	911	827	892	888	741	567	8,442
急病	338	256	259	401	599	536	508	477	521	552	496	379	5,322

表6 年齢別搬送人員状況

区分	新生児	乳幼児	少年	18～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65歳以上	合計
人数	10	326	253	454	526	549	890	504	4,321	7,833
割合(%)	0.13	4.16	3.23	5.8	6.72	7.01	11.36	6.43	55.16	100

\* 年齢区分  
 新生児 生後28日未満の者  
 乳幼児 生後28日以上～7歳未満の者  
 少年 7歳以上～18歳未満の者

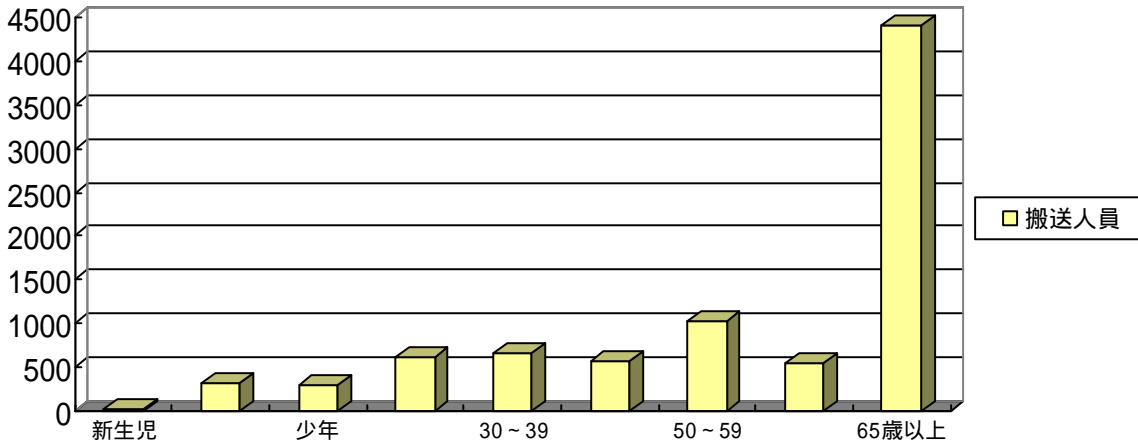
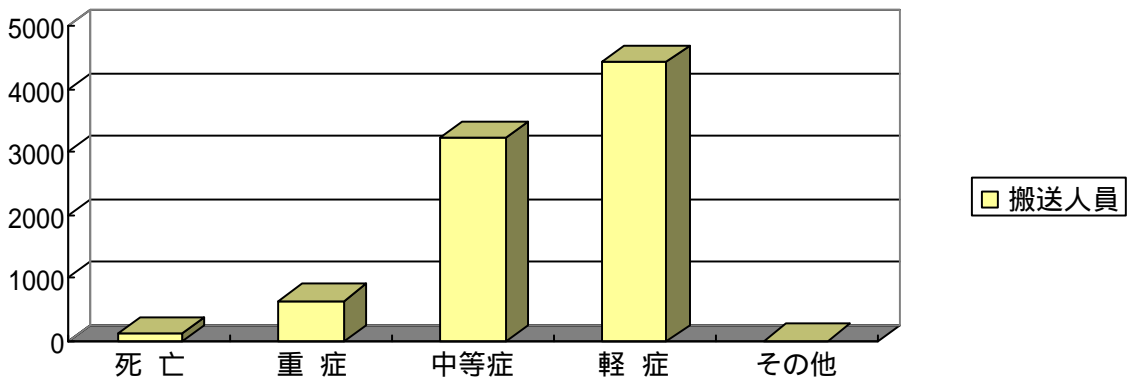


表7 傷病程度別搬送人員状況

程度	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
搬送人員	171	893	3,223	3,536	10	7,833

傷病程度区分  
 死亡 初診時に死亡確認したもの  
 重症 3週間以上の入院が必要なもの  
 中等症 入院が必要で重症に至らないもの  
 軽症 入院を必要としないもの



その他 医師の診断が無いもの、医療機関以外へ搬送したもの

表8 救急隊員が行なった応急処置

応急処置	件数	応急処置	件数
止血・被覆	491	聴診	781
固定処置	555	血中酸素飽和度測定	7,237
人工呼吸	34	心電図波形観察	1,531
心肺蘇生	196	器具を用いた気道確保(特定行為)	12
酸素吸入	2,074	静脈路確保(特定行為)	0
気道確保	294	除細動	26
血圧測定	6,381	その他	3,272
在宅療法	24	合計	22,908

表9 救命講習実施状況

区分	対象	対象								合計
		消防職員	消防団員	事業所	町内会	自主防災組織	学校関係	団体グループ	その他	
上級救命講習	回数	2		2					1	5
	人員	6		2					2	10
普通救命講習	回数			56		4	19	11	6	96
	人員			598		34	341	150	7	1,130
一般救急講習	回数			38	3	9	88	25	11	174
	人員			1399	61	314	4837	518	88	7,217
普及員・指導員養成講習	回数	4	1	2			1	1		9
	人員	4	23	13			5	22		67
上級救命再講習	回数	2		1				2	1	6
	人員	9		2				14	7	32
普通救命再講習	回数			30		5	9	5	4	53
	人員			134		44	47	19	20	264
普及員再講習	回数						1	1		2
	人員						1	2		3
合計	回数	8	1	129	3	18	118	45	23	345
	人員	19	23	2,148	61	392	5,231	725	124	8,723

表10 過去5力年の救命講習実施状況の推移

区分	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
実施回数	157	256	272	339	345
受講者数	3,503	4,347	4,271	8,982	8,723



# 火 災 統 計



## 1 火災概要

平成20年中の火災は、91件発生し前年より22件（19.5%）減少、37世帯、94名が被災した。

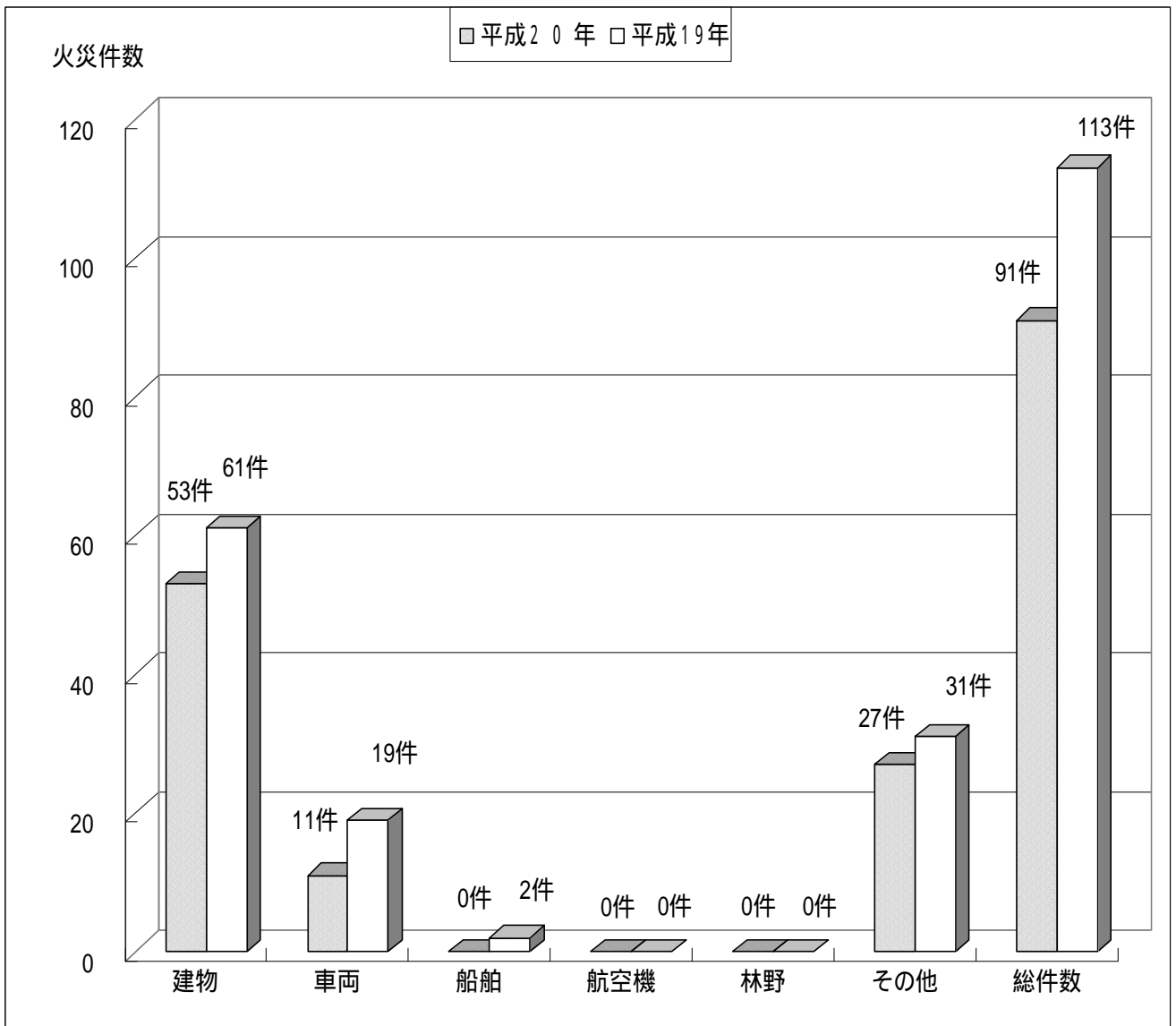
火災種別では、建物火災53件（全火災の58.2%）、車両火災11件（全火災の12.1%）、その他の火災27件（全火災の29.7%）、林野・船舶・航空機火災の発生は無い。前年と比較すると建物火災・車両火災は8件減少、船舶火災は2件減少、その他の火災は4件減少となっている。

焼損面積合計は、671㎡で前年より2,457㎡減少し、建物火災1件あたりと比較すると焼損面積は1件あたり12.7㎡を焼失、前年より38.6㎡の減少となっている。

損害額は、5,562万3千円で前年より3億2,094万3千円減少し、火災1件あたり61万1千円の損害を受けたことになる。

死者は3名で前年より2名減少、負傷者は12名で昨年と同数、死者の発生した火災種別は建物火災が3件となっている。

### (1) 火災種別前年比較



(2) 火災発生状況前年比較

区 分		平 成 20 年		平 成 19 年		増減		
火災件数 (件)	建 物	53	(4)	61	(3)	8	(1)	
	林 野	0	(0)	0	(0)	0	(0)	
	車 両	11	(5)	19	(2)	8	(3)	
	船 舶〔航空機〕	0	(0)	2	(1)	2	( 1 )	
	そ の 他	27	(2)	31	(2)	4	(0)	
	合 計	91	(11)	113	(8)	22	(3)	
建 物	焼損床面積 (m <sup>2</sup> )	639	(125)	2,679	(137)	2,040	( 12 )	
	焼損表面積 (m <sup>2</sup> )	32	(0)	449	(0)	417	(0)	
	合 計 (m <sup>2</sup> )	671	(125)	3,128	(137)	2,457	( 12 )	
林野焼失面積 (a)		0	(0)	0	(0)	0	(0)	
損害額 (千円)	建 物	建 築 物	31,433	(1,541)	78,610	(935)	47,177	(606)
		収 容 物	22,993	(760)	285,080	(915)	262,087	( 155 )
	林 野	0	(0)	0	(0)	0	(0)	
	車 両	997	(192)	1,498	(361)	501	( 169 )	
	船 舶	0	(0)	10,706	(100)	10,706	( 100 )	
	航 空 機	0	(0)	0	(0)	0	(0)	
	そ の 他	200	(20)	672	(0)	472	(20)	
	爆 発	0	(0)	0	(0)	0	(0)	
	合 計	55,623	(2,513)	376,566	(2,311)	320,943	(202)	
焼損棟数 (棟)	全 焼	3	(0)	11	(3)	8	( 3 )	
	半 焼	9	(2)	7	(0)	2	(2)	
	部 分 焼	14	(1)	16	(0)	2	(1)	
	ぼ や	27	(1)	30	(0)	3	(1)	
	爆 発	0	(0)	0	(0)	0	(0)	
	不 明	0	(0)	0	(0)	0	(0)	
	合 計	53	(4)	64	(3)	11	(1)	
り災人員 (名)		94	(6)	117	(5)	23	(1)	
合計り災世帯数		37	(2)	51	(2)	14	(0)	
死 者		3	(0)	5	(0)	2	(0)	
負 傷 者		12	(4)	12	(2)	0	(2)	
火災発生率 / 1万人当		4.6	(10.9)	5.6	(7.7)	1.0	(3.2)	

1. は減少を示す。

2. ( ) 内の数字は白糠町の件数で、内数とする。

3. 計算の基礎となる数値

釧路市 人口 188,812人 (平成20年11月30日現在)

白糠町 人口 10,087人 (平成20年11月30日現在)

(3) 月別火災状況

出火月	火災件数									焼損棟数					り災世帯			焼損面積		損害見積額(千円)				死者	負傷者	
	建物火災					船舶	車両	その他	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	爆発	全損	半損	小損	り災人員	建物		損害額合計	建築物	(収容物 爆発含)			(その他 車両含)
	全焼	半焼	部分焼	ぼや	爆発														焼損床面積	焼損表面積						
1	1			1			2	4	1			1							12		111	63	48			
2			1	7		2	2	12			1	7				4	13		3	306	115	9	182		1	
						(2)	(1)	(3)												(182)			(182)			
3		4	3	2			2	11		4	3	2		3	5	5	30	318	5	22,203	17,889	4,278	36	3	5	
		(1)						(1)		(1)					(1)		(4)	(74)		(1,686)	(1,433)	(253)			(1)	
4			2	6		1	6	15			2	6				5	17	10	1	923	365	488	70		2	
				(1)			(1)	(2)				(1)				(1)	(2)			(119)	(107)	(12)			(2)	
5			1	5		1	2	9			1	5		1		4	15	17		3,613	1,647	1,643	323		2	
6	1		1			2	1	5	1		1			1			2	45	2	1,078	709	282	87			
						(1)		(1)																		
7		2	1				2	5		2	1				1	1	5	79		4,344	2,036	2,308				
		(1)						(1)		(1)								(46)		(494)		(494)				
8		1	2	1		2	3	9		1	2	1			2	1	6	64	1	14,550	3,656	10,849	45			
						(1)		(1)												(10)			(10)			
9		1		3		3	2	9		1		3				2	4	40		6,775	4,014	2,419	342			
						(1)		(1)												(20)			(20)			
10			2	2			2	6			2	2				1	1	7	20	450	444	6			1	
11		1	1				3	5		1	1				1		1	38		1,268	494	662	112		1	
			(1)					(1)			(1)							(5)		(2)	(1)	(1)			(1)	
12	1							1	1									9		2	1	1				
合計	3	9	14	27		11	27	91	3	9	14	27		5	9	23	94	639	32	55,623	31,433	22,993	1,197	3	12	
		(2)	(1)	(1)		(5)	(2)	(11)		(2)	(1)	(1)			(1)	(1)	(6)	(125)		(2,513)	(1,541)	(760)	(212)		(4)	

下段( )内の数値は、白糠町の件数で、上段の内数

## 2 主な火災

(死者を生じた火災、または損害額が1,000万円以上の火災及び10ha以上の林野火災)

出火日	火元用途	焼損程度	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額合計 (千円)	死者	出火原因
3月1日	共同住宅	部分焼	10		2,596	1	たばこ
3月10日	長屋併用 共同住宅	半焼	117		10,188	1	不明
3月23日	専用住宅	半焼	76		4,050	1	不明
8月15日	店舗併用住宅	部分焼	32		10,483		配線器具

## 3 用途別・原因別火災状況

建物火災53件の用途別内訳は、一般住宅19件(35.8%)、共同住宅9件(17%)、長屋併用共同住宅4件(7.5%)、飲食店4件(7.5%)、作業場4件(7.5%)、工場3件(5.7%)、重層長屋住宅2件(3.8%)、店舗併用住宅2件(3.8%)、店舗2件(3.8%)、牛舎併用倉庫2件(3.8%)、物置1件(1.9%)、給油所1件(1.9%)となっており、この内、居住建物からの火災が36件と全体の67.9%を占めている。

火災原因では、コンロ14件(15.4%)、たばこ12件(13.2%)、電気関係8件(8.8%)、放火(疑い含)6件(6.6%)、ストーブ4件(4.4%)、火遊び2件(2.2%)、煙突・煙道1件(1.1%)となっている。この内、コンロ火災について過去20年間の平均件数と比較すると平均を0.3件下回っているが、原因全体数の15.4%で原因のトップを占め、火災6.5件に1件はコンロ火災である。

出火原因	たばこ	火遊び	コンロ	放火・放火疑い	風呂・かまど	ストーブ	煙突・煙道	電気関係	その他	不明・調査中	合計
19年 件数	9	3	13	14	2	2	1	6	30	33	113
	(0)	(1)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(1)	(2)	(3)	(8)
20年 件数	12	2	14	6	0	4	1	8	24	20	91
	(1)	(0)	(2)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(1)	(5)	(11)
増減	3	1	1	8	2	2	0	2	6	13	22
	1	1	2	0	1	0	1	0	1	2	3

下段( )内の数値は、白糠町の件数で、上段の内数は減少を示す。

別表1 用途別・原因別火災状況一覧表

火元用途	火災件数	たばこ			コンロ			風呂・かまど	放火・疑い		ストーブ				煙突	火遊	電			その他					不明		死者	負傷者
		火源の落下	寝たばこ	不始末	油に火が移る	忘れ	その他		疑い	放火	自損	燃料の漏洩	不適切な使用	可燃物が触れる			輻射熱	短絡する	トラッキング	その他	溶接機・切断機	ポイラー	マッチ・ライター	たき火	焼却炉	排気管		
合計	91	1	11	1	8	5	6		1	1	1	1	1	2	2	3	3	2	1	1	5	4	1	10	20		3	12
建物火災	53	1	8	1	8	4	2		1	1	1	1	1	2	2	3	1	2	1	1	1	1		5	5		3	12
住宅	36	1	5	1	8	3	1				1	1		2	1	3	1		1	1	1			2	3		3	11
専用住宅	19	1	3		6	2						1		1	1	2			1						1		1	5
重層長屋住宅	2		1								1																	
店舗併用住宅	2															1								1				
共同住宅	9		1	1	1		1							1			1		1	1				1		1	3	
長屋併用共同住宅	4				1	1																		1	1	1	3	
飲食店	4		1			1								1										1				1
店舗	2		1				1																					
給油所	1		1																									
工場	3																2						1					
牛舎併用倉庫	2																				1			1				
作業場	4									1	1					1								1				
物置	1																							1				
車両火災	11						1										2					1	2	5				
乗用車	7						1										1					1	4					
塵芥収集車	1																						1					
その他	3																1						1	1				
船舶火災																												
その他火災	27		3			1	3														4	3		3	10			
野火火災	17		1																		3	3		2	8			
空地・道路法面	13																				1	2		2	8			
その他	4		1																		2	1						
その他火災	10		2			1	3														1			1	2			
公園	1						1																					
その他	9		2			1	2														1			1	2			

別表2 過去20年間における主な火災原因別状況

原因 年	た ば こ	コ ン ロ	風 呂 か ま ど	ス ト ー ブ	煙 突 ・ 煙 道	電 気 関 係	火 遊 び	放 火 ・ 疑 い	そ の 他	合 計
平成元年	4	21	3	12	6	11	4	17	28	106
平成2年	6	17	2	6	1	15	10	31	19	107
平成3年	8	12	1	12	1	7	6	23	41	111
平成4年	10	19	1	11	0	13	9	24	34	121
平成5年	8	22	2	15	3	17	7	20	34	128
平成6年	8	16	0	11	4	16	7	11	30	103
平成7年	6	10	1	6	3	8	3	11	37	85
平成8年	10	17	1	8	0	12	8	29	39	124
平成9年	9	10	1	6	1	9	4	15	37	92
平成10年	7	12	2	6	5	11	4	18	33	98
平成11年	11	11	2	7	1	5	1	16	43	97
平成12年	7	15	1	6	1	9	5	12	45	101
平成13年	5	18	0	7	1	6	1	22	39	99
平成14年	1	15	4	8	4	1	5	27	30	95
平成15年	6	13	0	9	1	4	2	20	26	81
平成16年	5	9	0	2	3	6	2	21	42	90
平成17年	8	10	1	8	2	7	0	18	35	89
	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(2)	(3)	(8)
平成18年	4	11	1	7	1	9	1	8	38	80
	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(7)	(7)
平成19年	9	13	2	2	1	6	3	14	63	113
	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(1)	(1)	(0)	(5)	(8)
平成20年	12	14	0	4	1	8	2	6	44	91
	(1)	(2)	(0)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(6)	(11)
平均	7.2	14.3	1.3	7.7	2.0	9.0	4.2	18.2	36.9	100.6

太線で囲まれた部分は、当該年における火災原因のトップ

平成17年以降下段( )内の数字は、白糠町の件数で上段の内数



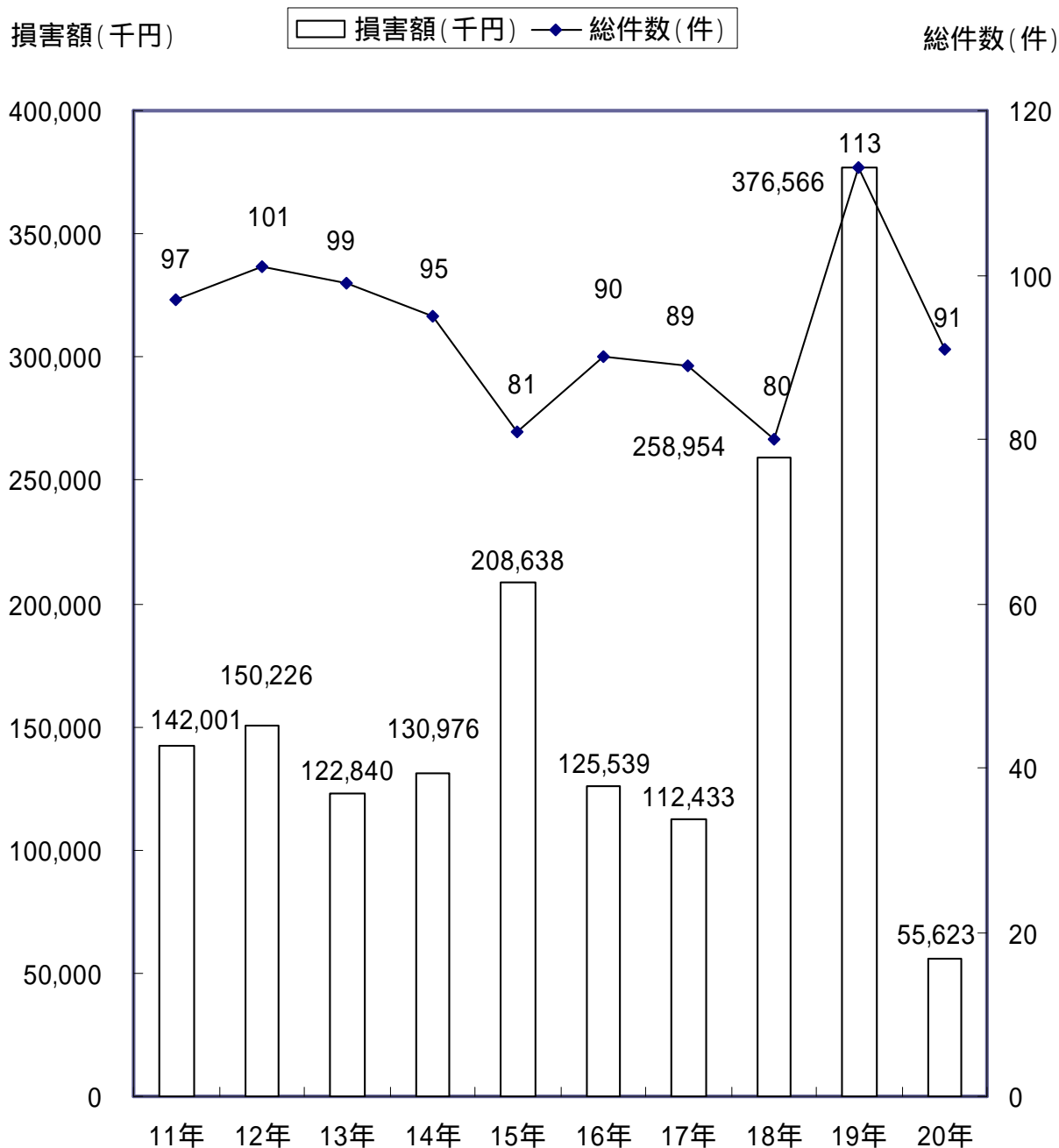
#### 4 火災件数及び損害額の推移

平成 11 年から平成 20 年までの過去 10 年間、火災件数の平均は約 94 件である。

平成 20 年の火災件数は 91 件で、10 年間の平均火災件数と比較すると 3 件の減少である。

平成 20 年の損害額は約 5562 万 3 千円で、過去 10 年間の平均損害額の 1 億 6838 万円と比較すると 1 億 1275 万 7 千円の減少となっている。

10 年間の火災件数及び損害額の推移



別表3 10年間の火災状況の推移

年次	総件数	建物件数	焼失面積 (㎡)	損害額 (千円)	1万人当り火災発生率	1件当り		市民1人当り損害額 (円)	1世帯当り損害額 (円)	1日当り			死者
						建物火災焼損面積 (㎡)	損害額 (千円)			火災件数	焼損面積 (㎡)	損害額 (千円)	
11	97	74	1,514	142,001	5.0	20.5	1,464	728	1,690	0.266	4.15	389	10
12	101	76	1,769	150,226	5.2	23.3	1,487	776	1,768	0.276	4.84	411	3
13	99	65	1,331	122,840	5.2	20.5	1,240	638	1,436	0.271	3.65	336	2
14	95	73	1,997	130,976	5.0	27.4	1,379	679	1,926	0.260	5.47	359	1
15	81	65	1,632	208,638	4.3	25.1	2,576	1,104	2,410	0.222	4.47	572	3
16	90	72	2,668	125,539	4.8	37.1	1,395	670	1,436	0.246	7.29	343	1
17	89	70	2,200	112,433	4.3	31.4	1,263	546	1,165	0.244	6.03	308	5
	(8)	(7)	(181)	(2,926)	(7.5)	(25.9)	(366)	(272)	(642)	(0.022)	(0.50)	(8)	(1)
18	80	57	8,284	258,954	3.9	145.3	3,237	1,272	2,664	0.219	22.70	709	6
	(7)	(4)	(7,216)	(158,978)	(6.6)	(1,804.)	(22,711)	(15,073)	(352,501)	(0.019)	(19.77)	(436)	(1)
19	113	61	3,128	376,566	5.6	51.3	3,332	1,871	3,869	0.310	8.57	1032	5
	(8)	(3)	(137)	(2,311)	(7.7)	(45.7)	(289)	(223)	(514)	(0.022)	(0.38)	(6)	(0)
20	91	53	671	55,623	4.6	12.7	611	280	570	0.248	1.83	152	3
	(11)	(4)	(125)	(2,513)	(10.9)	(31.3)	(228)	(249)	(560)	(0.03)	(0.34)	(7)	(0)
平均	94	67	2,519	168,380	4.8	39	1,798	856	1,893	0.256	6.90	461	3.9

平成17年以降の下段( )内の数値は、白糠町の件数で、上段の内数計算の基礎となる数値

釧路市 人口 188,812人 (平成20年11月30日現在)

白糠町 人口 10,087人 (平成20年11月30日現在)

## 5 所轄区域別火災状況

### (1) 中央消防署管轄

方面	管轄	出火場所	建物火災					車両	船舶	その他	総計
			全焼	半焼	部分焼	ぼや	爆発				
中央消防署	中央	宝町		1							1
		寿町				1					1
		浜町								2	2
		末広町			1	1					2
		小計	0	1	1	2	0	0	0	2	6
	新橋	若松町				1					1
		松浦町			1						1
		堀川町			1	2					3
		川北町			1						1
		喜多町								1	1
		新栄町		1							1
		駒場町								1	1
		小計	0	1	3	3	0	0	0	2	9
	愛国	入江町	1								1
光陽町		1								1	
中園町					1					1	
東川町									1	1	
愛国									1	1	
愛国東			1	2			1			4	
愛国西					1					1	
芦野					1					1	
文苑					3					3	
	小計	2	1	2	6	0	1	0	2	14	
中央消防署計			2	3	6	11	0	1	0	6	29

### (2) 東消防署管轄

方面	管轄	出火場所	建物火災					車両	船舶	その他	総計
			全焼	半焼	部分焼	ぼや	爆発				
東消防署	東	港町								2	2
		浦見	1								1
		弥生								1	1
		知人			1						1
		富士見			1						1
		大川町				2					2
		小計	1	0	2	2	0	0	0	3	8
	武佐	緑ヶ岡				1				1	2
		武佐		1		1				1	3
		貝塚				1					1
		小計	0	1	0	3	0	0	0	2	6
	桜ヶ岡	桜ヶ岡		1							1
		春採(1~6丁目)			1			1		1	3
		興津				1				3	4
益浦			1		2				2	5	
桂恋									1	1	
	小計	0	2	1	3	0	1	0	7	14	
東消防署計			1	3	3	8	0	1	0	12	28

( 3 ) 西消防署管轄

方面	管轄	出火場所	建物火災					車両	船舶	その他	総計	
			全焼	半焼	部分焼	ぼや	爆発					
西	西	鳥取大通		1							1	
		鳥取南				1		1			2	
		鳥取北			2						2	
		昭和								1	1	
		昭和南				1				1	2	
		昭和中央				1					1	
		星が浦大通						1			1	
		星が浦南				2					2	
		鶴野								2	2	
		鶴野東				1					1	
	小 計		0	1	2	6	0	2	0	4	15	
消	大楽毛	星が浦大通			1						1	
		星が浦南								1	1	
		大楽毛								1	1	
		鶴丘				1					1	
		小 計		0	0	1	1	0	0	0	2	4
防	阿寒	阿寒町舌辛原野			1					1	2	
		小 計		0	0	1	0	0	0	0	1	2
		音別	音別町中園町						1			1
	音別町原野						1			1		
	小 計		0	0	0	0	0	2	0	0	2	
署	白糖	白糖町東			1	1	1				3	
		白糖町西								1	1	
		白糖町和天別		1				1			2	
		白糖町茶路		1				1			2	
		白糖町西庶路						1		1	2	
		白糖町コイトイ						1			1	
		小 計		0	2	1	1	0	5	0	2	11
西 消 防 署 計		0	3	5	8	0	9	0	9	34		

( 4 ) 全市総計 (白糖町含む)

総 計	建物火災					車両	船舶	その他	総計
	全焼	半焼	部分焼	ぼや	爆発				
	3	9	14	27	0				

# 予 防 編



# 1 防火対象物状況

項 別	区 分	構 造 別 棟 数										階 層 別 棟 数					高 層 建築物 (高さ31m を超えるもの)			
		耐 火		準 耐		防 火		木 造		そ の 他		合 計		2 階	3 階	5 階		11 階	地 下	
		白 糖		白 糖		白 糖		白 糖		白 糖		白 糖		以 下	4 階	10 階		以 上	有 数	白 糖
1	イ	10	1	2				1			13	1	11	1	2					
	ロ	36	4	15	5	66	8	5	3		122	20	113	18	8	2	1		7	
2	イ																			
	ロ	8	1	13	1	4		1			26	2	25	2	1				7	1
	ハ																			
3	イ							1			1		1							
	ロ	48		24	1	147	3	2	1		221	5	180	5	17		24		25	1
4		47	1	120	10	150	10	3	2	2	322	23	295	22	23	1	4		20	2
5	イ	54	1	9	2	33	1	1	1		97	5	40	3	25	2	27	5	25	2
	ロ	659	33	126		736	35	18	11	2	1,541	79	918	59	389	20	227	7	96	6
6	イ	56	1	5	1	52	3	2	2		115	7	75	7	24		16		30	3
	ロ	49	4	33	1	51	1	10	3		143	9	130	9	13				6	
	ハ	17	1	12		11	2	1			41	3	40	3	1					
7		77	6	41		15				1	134	6	74	3	58	3	2		7	1
8		7		1				2			10		6		3		1		3	
9	イ					1					1		1						1	
	ロ	1		6		10		1	1		18	1	18	1						
10		1									1			1						
11		13	1	10		56	6	10	1		89	8	79	8	10				15	1
12	イ	61	14	480	34	166	49	50	8	11	1	768	106	706	105	50	1	12		11
	ロ																			
13	イ	16	2	77	9	21	6				114	17	110	17	3		1			2
	ロ			1							1		1							
14		69	20	418	54	212	46	70	28	24	3	793	151	774	151	19			3	
15		337	19	269	59	160	13	20	3	7		793	94	609	88	140	6	44		99
16	イ	165	6	62	5	314	10	10	5		551	26	405	26	103		41	2	71	3
	ロ	86	1	74	3	1,250	2	8	2	5	2	1,423	10	1,328	10	67		28	28	1
総合計		1,817	116	1,800	185	3,460	195	216	71	53	6	7,346	573	5,947	538	957	35	428	14	454

## 2 防火管理者選任及び消防計画提出状況

区分	甲 種													乙 種														
	防火管理者						消防計画						訓練	防火管理者						消防計画						訓練		
	必要数	選任数	選任率	必要数	提出数	提出率	必要数	提出数	提出率	必要数	選任数	選任率		必要数	提出数	提出率	必要数	提出数	提出率									
																				白標	白標	白標	白標	白標	白標		白標	白標
1	イ	10	1	10	1	100%	100%	10	1	10	1	100%	100%	7	0.5	1	1	100%	1	1	100%							
	ロ	41	10	40	10	98%	100%	41	10	40	10	98%	100%	17.5	4.5	71	10	71	10	100%	100%	71	10	71	10	100%	100%	7
2	イ																											
	ロ	23	2	23	2	100%	100%	23	2	23	2	100%	100%	12	0.5													
	ハ																											
3	イ																											
	ロ	84	2	83	2	99%	100%	84	2	78	2	93%	100%	13.5		74	2	70	2	95%	100%	74	2	65	2	88%	100%	3
4		141	7	136	7	96%	100%	141	7	137	7	97%	100%	51.5	2	31	8	30	8	97%	100%	31	8	30	8	97%	100%	1
5	イ	51	3	51	3	100%	100%	51	3	51	3	100%	100%	29		2	1	2	1	100%	100%	2	1	2	1	100%	100%	0.5
	ロ	321		320		100%		321		319		99%		65														
6	イ	34		34		100%		34		34		100%		24														
	ロ	75	4	75	4	100%	100%	75	4	75	4	100%	100%	47.5	2	7	1	6	1	86%	100%	7	1	6	1	86%	100%	4
	ハ	36	3	36	3	100%	100%	36	3	36	3	100%	100%	23.5	2													
7		83	6	83	6	100%	100%	83	6	83	6	100%	100%	73.5	1.5	8		8		100%		8		8		100%		4
8		9		9		100%		9		9		100%		6		1		1		100%		1		1		100%		
9	イ	1		1		100%		1		1		100%		0.5														
	ロ	9		9		100%		9		9		100%		3		4	1	4	1	100%	100%	4	1	4	1	100%	100%	2
10		1		1		100%		1		1		100%																
11		55	7	54	7	98%	100%	55	7	53	7	96%	100%	10.5	0.5	13		12		92%		13		12		92%		8
12	イ	30	2	30	2	100%	100%	30	2	30	2	100%	100%	4	1													
	ロ																											
13	イ																											
	ロ																											
14		3		3		100%		3		3		100%																
15		149	8	148	8	99%	100%	149	8	147	8	99%	100%	51		40	4	39	4	98%	100%	40	4	39	4	98%	100%	27
16	イ	198	11	193	11	97%	100%	198	11	194	11	98%	100%	66	1	28	4	28	4	100%	100%	28	4	28	4	100%	100%	7.5
	ロ	52	7	51	7	98%	100%	52	7	50	7	96%	100%	8		6		6		100%		6		6		100%		2
合計		1408	73	1392	73	99%	100%	1408	73	1385	73	98%	100%	514	15.5	287	31	279	31	97%	100%	287	31	274	31	95%	100%	66.5

特定対象物の訓練の記載は、1回を0.5とし一対象物2回までとする。



### 3 建築同意事務及び消防用設備等検査事務の状況

項	種 別 用 途	工 事 種 別					検 査 等			
		新築	増築	用途 変更	計画 変更	その他	小計	着工	設置	検査
1	イ 劇場・映画館等					1	1		7	1
	ロ 公会堂・集会場			1			1	1	2	1
2	イ キャバレー・カフェ等									
	ロ 遊技場・ダンスホール							1	3	1
	ハ 風俗営業等									
	ニ カラオケボックス等									
3	イ 待合・料理店									
	ロ 飲食店	2		3			5	4	23	9
4	百貨店・店舗	12			4	2	18	7	18	3
5	イ 旅館・ホテル等	1					1	4	2	1
	ロ 下宿・共同住宅	52		1	11	4	68	21	10	3
6	イ 病院・診療所	1		1			2	2	14	6
	ロ 社会福祉施設等	3	5	6	2	2	18	17	35	16
	ハ 幼稚園等		1		1		2	2	4	1
7	学 校 等	1				4	5	9	11	5
8	図書館・博物館									
9	イ 蒸気浴場・熱気浴場等									
	ロ その他の公衆浴場							1		
10	停車場・発着場									
11	神社・寺院等		4				4	1		
12	イ 工場・作業場	9	4	1	3	2	19	8	5	1
	ロ 映画・テレビスタジオ									
13	イ 車庫・駐車場	3	1			4	8	6	6	2
	ロ 飛行機の格納庫							1		
14	倉 庫	5	11		3	3	22	4	10	3
15	その他の事業所	19	12		3	8	42	4	9	3
16	イ 特定複合用途	3	3	4	2	4	16	28	74	21
	ロ 非特定複合用途	19	3	1	4	2	29	9	11	3
住 宅	住 宅	61	2		11		74			
	付 属 建 築 物	16					16			
	通 知 建 築 物	431	33		77	20	561			
その他(危険物施設等)			2				2			
工 作 物		36					36			
合 計		674	81	18	121	56	950	130	244	80

#### 4 危険物施設の推移状況

施設年	製造所	貯 蔵 所							取 扱 所				合計
		屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外	給油	販売	移送	一般	
16	1	39	118	59	304		559	24	189	4	22	151	1,470
17	1	50	145	64	374	1	596	19	228	4	22	177	1,681
18	1	52	144	63	371	1	586	18	225	4	22	172	1,659
19	1	53	140	63	372	1	578	19	218	4	22	170	1,641
20		53	139	61	365	1	540	18	211	4	21	169	1,582

#### 5 石油コンビナート等特別防災区域内の特定事業所の現況

当市の特防区域は、昭和51年7月に指定を受けた後、平成13年10月の区域変更で中央・北埠頭地区、南港地区の指定解除により指定区域は西港区域とされ、平成20年12月31日現在、指定事業所3、面積37ha、危険物の総貯蔵・取扱量約246千klとなっている。

##### (1) 釧路地区特別防災区域特定事業所及び貯蔵取扱量(第4類)

単位(kl)

種別	事業所	貯 蔵 所				取 扱 所		合計
		屋内	屋外タンク	地下タンク	屋外	移送	一般	
一 種	東 西 オ T	2	17	1	6		3	29
		345	67,821	3	220		5,089	73,478
一 種	出 光 興 産	1	10			19	4	34
		191	23,020			72,300	8,159	103,670
一 種	ジ ャ パ ン エ ナ ジ ー	3	17		1		2	23
		281	63,009		18		5,300	68,608
合 計	施 設 数	6	44	1	7	19	9	86
	貯 蔵 取 扱 量	817	153,850	3	238	72,300	18,548	245,756

上段...施設数、下段...貯蔵取扱量を示す。

##### (2) 特定事業所の防災資機材等(現有数量)

事業所	区分	耐熱服	消火薬剤(I)		呼吸器 (基)	屋外給 水栓(基)	オイルフィンス (m)
			界面	蛋白			
西 港	東 西 オ T	2	11,160		2	14	640
	出 光 興 産	2	11,160		2	7	920
	ジ ャ パ ン エ ナ ジ ー	2	11,160		2	15	640
	共 同 防 災	6	22,320		6		820
合 計		12	55,800	0	12	36	3,020

(3) 共同防災組織の防災資機材等

	大型化学車	甲種高所化学車	大型高所放水車	普通高所放水車	オイルフェンス 展開船
西港共同防災	1台		1台		1隻

(4) 行政機関の防災資機材等

	消火薬剤 (l)	中和剤 (l)	オイルフェンス (m)
北海道	20,500	24,100	520
釧路市	27,260	882	840
合計	47,760	24,982	1,360

6 釧路市民防災センター

釧路市民防災センターは、平成9年7月に道内で最初の体験型防災センターとして開館しました。

地震体験室・初期消火体験室・火災(煙)体験室・てんぷら火災消火コーナー・応急救護体験室等の体験をして学ぶ施設や釧路市の防災マップ等、映像・写真で解説するコーナーを設け、子供から大人まで災害に対する防災知識を楽しみながら学ぶことができます。

(1) 防災センター入館者数

利用団体別では学校関係、事業所関係、自主防災関係、町内会関係、体験室別では火災(煙)体験室、地震体験室、消火体験室、救急体験室の順になっています。

学校関係		事業所関係		自主防災関係		町内会関係		その他		合計		個人
団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	人数
82	3,546	91	1,528	12	418	7	92	74	1,620	266	7,204	5,946

(2) 施設ごとの利用者数

施設	火災(煙)体験室	地震体験室	消火体験室	救急体験室
人数	13,094	13,038	11,976	2,589

7 自主防災組織等結成状況

(1) 自主防災組織

	組織名	組織数	構成・組織人員	結成年月日
	釧路市連合防災推進協議会	20	366町内会	昭和60年6月17日
	釧路市家庭防災推進員連絡協議会	21	656人	昭和59年11月30日
	自衛消防組織	6	212人	
	婦人消防組織	2	32人	
	幼年消防組織	6	293人	
	少年消防組織	22	1,628人	

## (2) その他の団体

組 織 名	組 織 数	事 業 所 数	結 成 年 月 日
釧路市危険物安全協会	8	112	昭和38年10月20日
釧路市防火管理者連絡協議会	3	394	昭和40年10月20日

## 8 自主防災組織等行事別活動状況

行事	組 織 地 区 推 進 協 議 会	家 防 員 組 織	自 衛 消 防 組 織	婦 人 消 防 組 織	幼 年 消 防 組 織	少 年 消 防 組 織	合 計
防 災 行 事	62	65			165	5	297
防 災 映 画	2	1			11		14
防 災 講 話	10	2			107		119
カ ル タ 大 会	2	8			2	1	13
フ ェ ス テ ィ バ ル	11	9				1	21
そ の 他	37	45			45	3	130
懇 談 会 等	114	175			5		294
懇 談 会	3	9					12
研 修 会	19	41			1		61
そ の 他	92	125			4		221
訓 練 等	37	24			120		181
消 火 器	8	4			7		19
救 急 講 習	8	14			3		25
そ の 他	21	6			110		137
合 計	213	264			290	5	772

## 9 地域防災活動状況

	地区推進協議会		家庭防衛組織		自衛消防組織		婦人消防組織		幼年消防組織		少年消防組織		その他	合計	
	組織数	活動回数	組織数	活動回数	組織数	活動回数	組織数	活動回数	組織数	活動回数	組織数	活動回数	活動回数	組織数	活動回数
	構成町内会数	参加人数	組織人員	参加人数	組織人員	参加人数	組織人員	参加人数	組織人員	参加人数	組織人員	参加人数	参加人数	組織人員	参加人数
第1分団 地区	1	7	1	14		0		0		0		0	0	2	21
	12	128	19	32		0		0		0		0	0	31	160
第2分団 地区	1	4	1	9		0		0		0		0	0	2	13
	18	40	30	128		0		0		0		0	0	48	168
第3分団 地区	1	13	1	8		0		0	1	4		0	0	3	25
	24	273	42	138		0		0	173	660		0	0	239	1,071
第4分団 地区	1	7	1	11		0		0	3	22	1	2	0	6	42
	26	387	48	153		0		0	234	1,368	40	62	0	348	1,970
第5分団 地区	1	27	1	35		0		0	2	60	1	0	1	5	123
	13	456	31	182		0		0	137	4,163	9	0	1	190	4,802
第6分団 地区	1	15	1	45		0		0	2	42	2	0	1	6	103
	27	194	29	183		0		0	138	2,918	224	0	12	418	3,307
第7分団 地区	1	13	1	36		0		0	2	66	0	0	1	4	116
	15	216	23	145		0		0	74	3,069	0	0	4	112	3,434
第8分団 地区	5	78	3	49	2	0		0	2	39		0	5	12	171
	64	1,774	150	369	112	0		0	202	3,456		0	1,349	528	6,948
第9分団 地区	1	5	2	12		0		0	4	11	1	5	4	8	37
	42	58	67	135		0		0	240	916	12	156	457	361	1,722
第10分団 地区	1	6	1	11		0		0	3	36		0	0	5	53
	41	388	43	194		0		0	240	2,546		0	0	324	3,128
第11分団 地区	4	29	2	13		0		0	1	16		0	0	7	58
	50	703	66	184		0		0	67	1,141		0	0	183	2,028
第12分団 地区	2	11	2	14	4	0	2	0	2	6		0	3	12	34
	34	356	48	114	100	0	32	0	123	570		0	131	337	1,171
第13分団 地区		0	1	1		0		0		0		0	1	1	2
		0	15	13		0		0		0		0	6	15	19
第14分団 地区		0		0		0		0		0		0	0	0	0
		0		0		0		0		0		0	0	0	0
阿寒支署 地区		0	2	6		0		0		0	1	0	2	3	8
		0	30	48		0		0		0	8	0	58	38	106
阿寒湖温泉支署 地区		0	1	1		0		0		0		0	1	1	2
		0	15	4		0		0		0		0	10	15	14
音別支署 地区		0		0		0		0		0		0	2	0	2
		0		0		0		0		0		0	49	0	49
白糠支署 地区		0		0		0		0		0		0	1	0	1
		0		0		0		0		0		0	15	0	15
合計	20	215	21	265	6	0	2	0	22	302	6	7	22	77	811
	366	4,973	656	2,022	212	0	32	0	1,628	20,807	293	218	2,092	3,187	30,112



# 消 防 団 編





### 1 消防団員条例定数・現在員

	合 計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
定 数	560	1	5	18	18	61	78	379
現在員	467 (54)	1	6	18	18	57 (4)	66 (9)	301 (41)

( )内は女性団員数で内数

## 2 消防団員配置表

	所在地	人 員							
		合 計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
団 本 部	南浜町 4-8	7	1	6					
第 1 分団	南大通 6-1-8	18 (2)			1	1	3	3	10 (2)
第 2 分団	浦見 7-3-2	17			1	1	3	3	9
第 3 分団	千歳町 3-13	24 (3)			1	1	3 (1)	3	16 (2)
第 4 分団	緑ヶ岡 1-21-1	20 (2)			1	1	3	3 (1)	12 (1)
第 5 分団	寿 1-1-8	12 (2)			1	1	3	3 (2)	4
第 6 分団	新富町 9-20	30 (2)			1	1	3	3 (1)	22 (1)
第 7 分団	川上町 6-2	29 (5)			1	1	3	3	21 (5)
第 8 分団	新栄町 10-16	24 (3)			1	1	3	3 (1)	16 (2)
第 9 分団	鳥取大通 1-5-4	21 (4)			1	1	3 (1)	3	13 (3)
第 10 分団	武佐 3-1-25	21 (3)			1	1	3	3 (1)	13 (2)
第 11 分団	桜ヶ岡 4-3-30	23 (3)			1	1	3	3	15 (3)
第 12 分団	大楽毛 4-6-2	24 (4)			1	1	3 (1)	3	16 (3)
第 13 分団	山花 14 線 141	22			1	1	3	3	14
第 14 分団	桂恋 172	28 (9)			1	1	3 (1)	3 (1)	20 (7)
阿寒第 1 分団	阿寒町仲町 2-6-23	42 (7)			1	1	5	6 (1)	29 (6)
阿寒第 2 分団	阿寒町阿寒湖温泉 3-8-1	38			1	1	4	6	26
阿寒第 3 分団	阿寒町徹別市街本通 2	26 (1)			1	1	3	5	16 (1)
音別第 1 分団	音別町中園 1-78	41 (4)			1	1	3	7 (1)	29 (3)
合 計		467 (54)	1	6	18	18	57 (4)	66 (9)	301 (41)

( ) 内は女性団員数で内数

### 3 消防団員年齢別表

	合 計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
合 計	467 (54)	1	6	18	18	57 (4)	66 (9)	301 (41)
20 歳 未 満								
20 歳以上～25 歳未満	16 (1)							16 (1)
25 歳以上～30 歳未満	33 (3)						2 (1)	31 (2)
30 歳以上～35 歳未満	52 (2)						2	50 (2)
35 歳以上～40 歳未満	65 (6)					2	8 (1)	55 (5)
40 歳以上～45 歳未満	77 (11)					7	8 (1)	62 (10)
45 歳以上～50 歳未満	68 (14)				1	6	15 (2)	46 (12)
50 歳以上～55 歳未満	49 (5)				3	7	16 (2)	23 (3)
55 歳以上～60 歳未満	56 (5)			8	8	18 (1)	10 (2)	12 (2)
60 歳 以 上	51 (7)	1	6	10	6	17 (3)	5	6 (4)
平 均 年 齢	44.6 (46.1)	79.0	68.0	62.3	57.8	55.0	48.2	39.3

( ) 内は女性団員数で内数

### 4 消防団員勤続年数表

	合 計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
合 計	467 (54)	1	6	18	18	57 (4)	66 (9)	301 (41)
5 年 未 満	118 (16)							118 (16)
5 年以上～10 年未満	86 (16)					3	6 (3)	77 (13)
10 年以上～15 年未満	62 (3)				1	4	11 (1)	46 (2)
15 年以上～20 年未満	70 (12)		1	2	3	7 (3)	23 (4)	34 (5)
20 年以上～25 年未満	44 (4)			2	1	12 (1)	14 (1)	15 (2)
25 年以上～30 年未満	28		1	3	2	9	6	7
30 年 以 上	59 (3)	1	4	11	11	22	6	4 (3)

( ) 内は女性団員数で内数

### 5 消防団員採用・退団・昇任状況

	退 団 者					昇 任 者	新 任 者
	5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 15 年未満	15 年以上	計		
団 長							
副 団 長				1	1		
分 団 長				1	1	1	
副 分 団 長				3	3	4	
部 長				3	3	5	
班 長		1			1	6 (2)	
団 員	7 (1)	9 (2)	6 (2)	4	26 (5)		23 (3)
合 計	7 (1)	10 (2)	6 (2)	12	35 (5)	16 (2)	23 (3)

( ) 内は女性団員数で内数



# 資 料 編



釧路市消防の沿革

年 月	事 項
明治 20年	釧路の街の繁栄著しく消防機関の設置が痛感され、真砂町西川幸右エ門ら有志相図り配下の人夫で1隊を組織、装備は纏1本、竜吐水1台
23年 9月	時の郡長宮本千万樹有志を説き消防組を設立、これが釧路消防組の始まりである。初代組頭原田幸吉氏、組員61名小型腕用ポンプ1台、器具置場入舟町11番地
25年 6月	2代目組頭 中西 鉄五郎氏
27年	組員20名を増して2部制とし、米町に第2器具置場を新設
31年 3月	公設消防組に改組、定員181組に増員、3部制とし、頓化に第3部新設、腕用ポンプ2台購入
33年	釧路町制が施行されて、はじめて消防費の計上をみた
34年11月	州崎町大火660戸全焼、死者3名、第1部番屋焼失
35年	州崎町に第1部番屋再建
37年10月	3代目組頭 大井 留八氏就任
43年 7月	4代目組頭 古瀬 恒次郎氏就任
44年10月	4部制となる。幣舞橋際に第4部新設、組員定員201人となる
大正 2年12月	橋北の大火 286戸全焼、ガソリンポンプ購入の議、起こる
3年	ガソリンポンプ購入、本道におけるガソリンポンプの始まりと伝えられる
3年10月	州崎町34番地に第5部新設、5部制とする
4年 3月	茂尻矢5番地に番屋新築し、第4部幣舞橋から移転する。第1部は州崎町から幣舞橋詰に移った。
4年10月	真砂町43番地に第2部新築移転
7年	西幣舞繁華街から出火86戸全焼
7年	大正4年から毎年1台のガソリンポンプ購入、第1、3、2、4部に順次配置、防火陣容を整えた。
8年 1月	西幣舞9番地から出火、298戸全焼、死者1名、破壊消防隊設置の議、起こる
8年 6月	西幣舞35番地第6部新設、破壊消防隊編成
8年10月	組員から14名の夜間常備員選抜夜警開始
8年10月	5代目組頭、岡田 伊之助氏就任
11年	ポンプ自動車2台購入、第1部に配置
11年11月	真砂町時枝病院から出火146戸全焼、ポンプ自動車1台焼失
11年12月	7部制に改め浦見町4番地に第7部新設、定員211名、常備員18名昼間常備制となる
12年	ポンプ自動車1台購入、第1部配置
12年 1月	西幣舞68番地より出火141戸全焼
12年 8月	第2部部長、田畠 忠太郎氏等の奔走より消防殉難碑を建立する

年 月	事 項
大正 12年 8月	鳥取消防組設立する（後の第9分団）初代組頭 堀 稍平氏
14年 2月	西幣舞100番地より出火118戸全焼
15年	ポンプ自動車1台購入、第2部配置貯水池3ヶ所新設
昭和 元年	西幣舞105番地より出火121戸全焼
2年	春採消防組発足（後の太平洋消防団）
4年	消防本部庁舎新築
5年	上水道消火栓通水、各部にポンプ自動車配置完了爾来大火災は全く見られなくなった
7年 9月	6代目組頭 原 長蔵氏就任
8年 5月	7代目組頭 根津 文治氏就任
10年	Vフォード市原式ポンプ自動車6台購入
11年 8月	浦見町2丁目3番地に7部を設置
14年 4月	警防団に改組、初代団長 根津文治氏
15年	潜行照明自動車購入
17年 2月	釧路市会、警防団組織の改組、定員の変更を可決、団に常備消防本部を置き、本部長以下44名を配置有給とし、各部は部長以下30名となる
17年 2月	本部長 多田 和助氏就任
18年	空襲火災に備えて市内79ヶ所に貯水池槽造成
18年 6月	北大通1の1元職業指導所を買収、本部を拡張
19年 2月	第2代団長 長内 丑右エ門氏就任
19年 7月	本部団相互間の通信連絡用警察専用電話新設開通
19年 7月	北大通10丁目に6分団設置、旧6分団を7分団と改称
20年 7月	空襲に備えて弟子屈町などよりポンプ自動車2台の応援を得た
20年 7月	14日大空襲、133戸焼失、倒壊1,485棟、死者177名、傷者143名、団員の敢闘はめざましいものがあった 第7分団庁舎焼失
20年11月	第3分団、富士見町1番地へ移転
22年 2月	第3代団長 馬場 佐治氏、公選によって就任
22年 2月	消防団設置条例制定、消防団に改組、初代団長 馬場佐治氏、定員常備44名、非常備254名、太平洋消防団発足
23年 1月	川上町6丁目に第7分団新設
23年10月	桂恋特設班新設 定員14名
23年12月	大楽毛特設班新設 定員14名
24年10月	鳥取町を併合、鳥取消防団をも併合、第8、9分団となる



年 月	事 項
昭和 25年 3月	釧路市消防団条例改正
25年 4月	消防本部設置条例制定、釧路市消防本部（庶務、消防2課）及び消防署発足、本部（署）定員68名
25年 4月	初代消防長 馬場 佐治氏団長兼任、初代署長 多田 和助氏就任
25年 9月	隠弥平特設班新設、腕用ポンプ1台、定員10名
25年10月	寿町64番地に第5分団庁舎新築移転
26年10月	栄町12丁目に第6分団庁舎新築移転
27年 6月	大楽毛特設班にガソリンポンプ配置
27年 6月	釧路市消友会音楽部発足
27年11月	団機構改革、太平洋消防団を廃し釧路市消防団に併合第10分団と改称、団定員384名
28年 9月	春採250番地に第10分団庁舎新築落成
30年 1月	第2代消防長 多田 和助氏就任、署長兼務
30年 6月	日本損害保険協会よりニッサンタンク車1台寄贈を受ける
30年12月	第2代団長 大石 良一氏就任、第2代署長 石川 晶英氏 就任
30年	本部（署）89名、車両7台、団員384名、車両10台、可搬式2台
31年 8月	桜ヶ岡24番地に第11分団開設
31年 8月	鳥取町9番地団庁舎に鳥取出張所併設
31年12月	第2代消防長 多田 和助氏 退任
31年12月	第3代消防長 大滝 直平氏 就任
31年12月	第3代団長 浅川 正敏氏 就任
31年	釧路市消防機関設置条例制定
32年 5月	予防査察受持管区制度確立
32年	釧路市消防団員等公務災害補償条例制定。職員106名に増員、車両8台、団11台
32年12月	共栄大通5丁目旧警察庁舎を買収改築、鳥取出張所、第8分団を移転
33年 7月	第7分団庁舎改築
33年	本部（署）119名に増員、署可搬式4台に増強
34年12月	富士見町29番地の旧国鉄寮を買収改築、富士見出張所を開設2台配置、第3分団を移転併置
34年12月	本部消防課を警防課と予防課に分離本部3課となる
34年	本部（署）126名、車両9台に増強、団可搬式3台に増強
35年 1月	新年観閲式挙行釧路市消防最後の登梯式を市民に披露
35年 5月	釧路市危険物の規則改定

年 月	事 項
昭和 35年	本部（署）133名に増員
36年 3月	全市建物平面図台帳完成
36年 4月	釧路市消防署音楽隊が編成される
36年 5月	釧路信用金庫よりタンク車1台寄贈を受ける
36年10月	昭和34年から3ヶ年計画で施設した火災報知機284基完成
36年10月	第1回法定防火管理者講習会実施496名の管理者誕生
36年10月	城山町16番地に第4分団庁舎新築移転
36年	本部（署）148名、車両10台、可搬式7台に増強
37年 6月	釧路市火災予防条例全面改正
37年 9月	査察制度の大改革実施、当務中の査察に切替え
37年12月	市内篤志家6社長（大滝、金井、宮地、渡部、渋谷、浜木の各氏）よりポンプ車6台の寄贈を受ける（各1台宛）
37年12月	大楽毛特設部器具置場改築、ポンプ車1台配置
37年12月	南大通6丁目旧拓銀を買収改築第1分団移転
38年 3月	7級都市より5級都市昇級決定
38年 4月	大楽毛特設部を分団に昇格、第12分団と称す
38年 8月	第3代消防長 大滝 直平氏 退任
38年 8月	第4代消防長 石川 晶英氏 就任
38年 8月	太平洋炭鉱よりポンプ車1台の寄贈を受ける
38年10月	釧路市危険物安全協会設立、事務局を本部予防課内に置く
38年11月	山花特設部桜田班に可搬式動力ポンプ配置
38年12月	大楽毛85の1に第12分団庁舎新築移転
39年 7月	救急業務開始
39年 9月	釧路市消防開設75周年を祝し、市厚生年金体育館に於いて記念式典を盛大に挙行 参列者1,200名
39年 9月	日本損害保険協会よりポンプ車1台の寄贈を受ける
39年11月	釧路市第1回防災訓練実施
40年 3月	激増する危険物火災に対処して化学消防車1台（市費1,000千円、寄贈5,500千円） 購入
40年 4月	消防職員5名増員、172名となる
40年10月	市費にてポンプ車1台購入
40年10月	消防職員の永年の懸案であった消防本部・署庁舎落成、鉄筋コンクリート2階建望 楼41mエレベーター付、延面積1,574.6㎡、総工費60,727,000円

年 月	事 項
昭和 40年10月	釧路市防火管理者連絡協議会設立、事務局を消防本部予防課内に置く
40年11月	第8分団消防車購入期成会（会長 小沢幸七氏）よりポンプ車1台（第8分団車）の寄贈を受ける
40年11月	浜 理作氏より望楼サイレン音響装置一式寄贈を受ける（1,650千円）
40年12月	鳥取36番地の3に第9分団庁舎新築落成式を挙行
41年 5月	住友生命(株)より救急車1台の寄贈を受ける
41年 7月	釧路市消防団員等公務災害補償条例全面改正
41年10月	火災報知機11基の増設を行い現有295基となる
41年11月	道東いすゞ(株)より予防車1台の寄贈を受ける
41年12月	屈折式梯子自動車購入（市費890万円）
42年 3月	竹川 秀雄氏(東洋不動産(株)社長)より水槽付消防自動車1台（300万円）の寄贈を受け竹川号と命名、鳥取出張所に配置する
42年 4月	元消防士長 浜市 徳男氏（勲6等瑞宝章）生存者叙勲の栄に輝く
42年 9月	北海道防災総合演習を釧路市において実施（参加人員2,000人余）
42年10月	火災報知機11基の増設を行い現有306基となる
43年 3月	釧路市消防機関設置条例を廃し、釧路市消防本部及び消防署設置条例を制定する
43年 3月	釧路市消防団条例全面改正
43年 3月	第4代消防長 石川 晶英氏退任
43年 4月	第5代消防長 松田 秀夫氏就任
43年 5月	第7分団消防車購入期成会(会長 登坂菊松氏)よりポンプ車1台の寄贈を受け旭光号と命名、第7分団に配置する
43年 5月	元消防司令 遠藤 義篤氏（勲6等瑞宝章）生存者叙勲の栄に輝く
43年 6月	釧路振興公社(社長 野坂作五郎氏)より消防自動車(先攻車)購入資金として500万円の寄贈を受ける
43年 9月	火災報知機9基の増設を行い、現有315基となる
43年11月	釧路市消防団、北海道知事より優良消防団表彰の栄に輝く
43年12月	桜ヶ岡24番地に桜ヶ岡出張所、第11分団合同庁舎新築する
43年12月	釧路市消防団規則全面改正
43年12月	消防団北斗特設部及び桜田特設部新設する
43年12月	消防水利施設21基増設し現有739基となる
44年 4月	釧路市消防本部組織規則を全面改正制定する
44年 6月	日本消防協会の資金協力により予防広報車1台予防課に配置する
44年 9月	消防殉難碑、鶴ヶ岱公園に移築再建する（工費272万円）

年 月	事 項
昭和 44年11月	火災報知機5基増設、320基となる
44年11月	第4分団消防車購入期成会(会長 管野 仁氏)よりポンプ自動車1台(もしりや号)及び消防第4分団庁舎の改増築の現物寄贈を受ける(ただし消防自動車には市費100万円支出)
44年11月	両角克治氏より救急車1台の寄贈を受ける
44年11月	消防水利41ヶ所増設780基となる
44年11月	分団長・助光 正蔵氏(勲7等青色桐葉章)生存者叙勲の栄に輝く
44年12月	消防署機構改革、係制に改める
44年12月	消防署規則規程の全面改正
44年12月	釧路振興公社よりポンプ自動車1台の寄贈を受ける
44年12月	城山消防職員住宅完成(鉄筋コンクリート3階建12世帯)
44年12月	梯子自動車購入、本署に配置する
45年 2月	クロスバー自動交換機及び一斉指令機を更新した
45年 5月	元消防士長 三木 峰市氏(勲7等青色桐葉章)生存者叙勲の栄に輝く
45年 9月	火災報知機5基(新富士地区)の増設を行い、現有325基となる
45年12月	第9分団に消防ポンプ自動車更新(市費350万円、特殊架装一式120万円を消防後援会第9分会より寄贈を受ける)
45年12月	第12分団に消防ポンプ自動車更新(市費150万円、薄 薫氏より100万円、木村恒子氏より100万円寄贈を受け総額350万円)
45年12月	消防水利21ヶ所増設849基となる
45年12月	ライフゼム6型、10基購入、署所に配置する
46年 3月	消防庁長官より優良消防機関として表彰旗受賞の栄に輝く
46年 5月	消防庁長官表彰旗受賞記念祝賀会を厚生年金体育館において開催
46年 5月	元消防司令補 鈴木 鉄次氏(勲7等瑞宝章)生存者叙勲の栄に輝く
46年 5月	釧路市消防職員研修所(旧新釧路駅)を開所し、職員153名の研修を行う
46年 7月	釧路市消防署新橋出張所庁舎移転新築落成(新橋大通3の1の6)
46年 7月	釧路市消防団第8分団庁舎移転新築落成(新栄町10の6)
46年11月	釧路市消防団第5分団庁舎移転新築落成(寿町1の1の8)
46年11月	道東消火栓標識(株)より、消防水利標識(消火栓、防火水槽150本)の寄贈を受ける
46年11月	空気呼吸器集合装置一式(47ℓ入りボンベ10本)ほくさん釧路営業所に設置する
46年12月	釧路市西消防署新築落成

年 月	事 項
昭和 46年12月	釧路市消防本部及び消防署設置条例の一部改正 現有勢力は1本部2署3出張所12ヶ分団4特設部(消防職員208名、消防団員327名)となる
46年12月	釧路市消防署自家整備工場が釧路市整備工場と統合し合理化をはかり作業能率の向上を図った
46年12月	釧路市西消防署の開設に伴い、救急車を配置し、2台運用となる
46年12月	消防水利49ヶ所(開発行為による水利を含む)増設し、945基となる
47年 5月	元釧路市消防長 石川 晶英氏(勲4等瑞宝章)、釧路市消防団副団長 中山 久治氏(勲6等単光旭日章)生存者叙勲の栄に輝く
47年 8月	通信工作車1台購入、警防課へ配置する
47年 8月	釧路振興公社より消防タンク自動車1台寄贈を受け、中央署に配置する
47年 9月	(財)日本損害保険協会より消防タンク自動車(化学車)1台寄贈を受け、富士見出張所に配置する
47年10月	消防無線電話機5台を更新した
47年11月	放水砲1台200万円で購入、中央署に配置、危険物及び大規模建築物火災に対する消防力の強化をはかる
47年11月	富士見出張所に温風暖房機を購入、蒸気ボイラーを廃止した
47年12月	釧路市消防団第2分団庁舎移転新築落成(浦見7丁目3番2号)
47年12月	消防水利44ヶ所(開発行為による水利を含む)増設し981基となる
48年 2月	網走信用金庫よりチェンソー3台の寄贈を受ける
48年 2月	釧路日産自動車株式会社より乗用車1台寄贈を受ける
48年 3月	第5代消防長 松田 秀夫氏 退任
48年 4月	第6代消防長 野原 浩嗣氏 就任
48年 5月	(株)三ツ輪商会外6法人、1個人より救急車1台の寄贈を受け、中央消防署に配置する
48年 5月	東部興業(株)・中央消火器販売・釧路市消防後援会より音楽隊制服の寄贈を受ける
48年 6月	元釧路市消防職員、佐々木 浅樹氏(勲5等瑞宝章)叙勲の栄に輝く
48年 6月	元釧路市消防団第9分団長、藤村 勝一氏(勲6等瑞宝章)生存者叙勲の栄に輝く
48年 7月	釧路トヨペット株式会社より救急車1台の寄贈を受け、西消防署に配置する
48年 7月	釧路市消防音楽隊に名称を改称する
48年 7月	釧路市消防音楽隊育成のため釧路市消防音楽隊後援会発足
48年 9月	釧路建設業協会より消防職員訓練のための施設として消防訓練塔の寄贈を受ける
48年11月	(株)協栄信興・釧路総業(株)より指揮広報車2台の寄贈を受ける
48年12月	釧路市消防団第1分団新築落成(南大通6丁目1番8号)

年 月	事 項
昭和 48年12月	釧路市消防団第1分団庁舎新築にあたり地域有志より備品購入資金等の寄贈を受ける
48年12月	川北消防職員待機宿舍完成（鉄筋コンクリート3階12世帯）
49年 1月	釧路市地区防災センター構想に基づき各分団に地区防災センターを設置して、業務を開始、火災予防、災害対策の確立をはかる
49年 3月	公費により消防タンク自動車1台を購入、桜ヶ岡出張所に配置する
49年 4月	新規採用職員13名を対象に当市で初めて2ヶ月間の初任教育を実施し、第1期生を送り出す
49年 5月	「市民総ぐるみ防火パレード」を実施し防火体制の確立をはかる
49年 5月	釧路橋南地区水産加工工業協同組合より消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け中央消防署に配置する
49年 8月	釧路市農業協同組合より消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け消防団第8分団に配置する（共栄牧野号）
49年 8月	釧路市中央消防署に特別救助隊（16名）を発足させ、救助体制の万全を期す
49年 9月	釧路市危険物施設等防災対策協議会設立（82事業所）
49年10月	公費により消防タンク自動車1台を購入し、武佐出張所に配置する
49年11月	釧路市中央消防署武佐出張所並びに、消防団第10分団庁舎落成
49年11月	国営土地株式会社より消防タンク自動車1台の寄贈を受け、西消防署に配置する
49年11月	釧路市消防本部組織規則及び釧路市消防署組織規程を改正 本部にあつては庶務課を総務課、警防課教養係を廃止、訓練所を新設 消防署にあつては救助係を新設、消防車2台配置、出張所を支署に改める 現有勢力は1本部、2署、2支署、2出張所、12ヶ分団、4特設部となる
50年 3月	山一地所(株)より戦闘指揮車の寄贈を受け、本部に配置する
50年 4月	釧路日産自動車株式会社より小型ポンプ積載車の寄贈を受け、山花特設部に配置する
50年 4月	元釧路市消防職員 酒井 八十吉氏（勲7等瑞宝章）叙勲の栄に輝く
50年 5月	原口産業(株)より消防ポンプ車2台の寄贈を受け、西署、大楽毛出張所置する
50年 6月	消防技術審議委員会設置、危険物施設及び防火対象物等の安全に関する技術上の問題について対処
50年 9月	東京都平和島公園で開かれた第4回全国消防救助技術大会に初めて参加、3チーム全員入賞を果たす
50年11月	釧路ロータリークラブより救急車の寄贈を受け、中央署に配置する
50年11月	第2、第5、第6、各分団の消防ポンプ自動車を購入、更新する
50年12月	重化学車を購入、西署に配置し、油火災に備える
50年12月	化学車を更新、富士見支署に配置する

年 月	事 項
昭和 50年12月	釧路市西消防署大楽毛出張所庁舎落成 現有勢力は1本部、2署、2支署、3出張所、12ヶ分団、4特設部となる
51年 1月	釧路日産自動車(株)より小型ポンプ積載車の寄贈を受け、桜田特設部に配置する
51年 4月	元釧路市消防団第3分団長 布施憲一氏(勲6等単光旭日章)生存者叙勲の栄に輝く
51年 4月	元釧路市消防団第8分団長 鷺野 清氏(勲6等瑞宝章)生存者叙勲の栄に輝く
51年 5月	住友生命保険相互会社より救急車の寄贈を受け、中央署に配置する
51年 6月	上野運輸(株)より原液車の寄贈を受け、中央署に配置する
51年 6月	北市水産(株)より大型バスの寄贈を受け、総務課に配置する
51年 6月	(株)紅花松田商店より原調車の寄贈を受け、予防課に配置する
51年 6月	電話等の普及により昭和49年から開始した火災報知機の撤去完了する
51年 6月	釧路ぬさまいライオンズクラブより、火災等の問い合わせに対する住民サービスと業務の効率化をはかるため、電話自動応答装置の寄贈を受け、本部に設置する
51年 7月	昭和50年12月17日制定された石油コンビナート等災害防止法により、南、中央、北各埠頭、西港が特別防災区域に指定される
51年 7月	市長の諮問機関として消防技術専門委員を設置する
51年11月	釧路市中央消防署鉄北支署、釧路市消防団第6分団合同庁舎完成 1本部、2署、3支署、3出張所、12ヶ分団、4特設部となる
51年12月	釧路日産自動車(株)より小型ポンプ積載車の寄贈を受け、桂恋特設部に配置する
52年 3月	北海道より原液車の配分を受け、西署に配置する
52年 4月	元釧路市消防団第4分団副分団長 近藤 勝太郎氏(勲7等瑞宝章)生存者叙勲の栄に輝く
52年 6月	釧路市危険物施設等防災対策協議会より予防車(ライトバン)の寄贈を受け、予防課に配置する
52年10月	第1、第3、第10、第11各分団の消防ポンプ自動車を購入し、更新する
52年10月	中央消防署鉄北支署、新橋支署の水槽付消防ポンプ自動車を購入し更新する
52年10月	ブレークスクワート車を購入し、中央署に配置する
52年11月	元釧路市消防団第2分団分団長 野田 政雄氏(勲6等瑞宝章)生存者叙勲の栄に輝く
52年11月	元釧路市消防団第2分団部長 大越 東一氏(勲6等瑞宝章)生存者叙勲の栄に輝く
52年12月	災害応急復旧用無線電話を設置し災害発生時にそなえ情報の途絶防止をはかった 富士見支署を署に昇格させ釧路市東消防署、釧路市消防団第3分団合同庁舎完成 現有勢力は1本部、3署、2支署、3出張所、12ヶ分団、4特設部となる
52年12月	関係諸規程を整備し機構改革により署「予防係」を「予防広報係」に「予防課危険物係」を「予防課保安係」に改める

年 月	事 項
昭和 53年 3月	釧路日産自動車(株)より査察車の寄贈を受け、中央署に配置する
53年 4月	丸昇自動車興業(株)より連絡車の寄贈を受け、総務課に配置する
53年 4月	釧路市危険物施設等防災対策協議会を釧路市危険物安全協会と改称する(115事業所)
53年 4月	釧路市危険物安全協会が社団法人北海道危険物安全協会連合会に加盟する
53年 6月	番茶会より小型ポンプ積載車の寄贈を受け、北斗特設部に配置する
53年 6月	釧路市西消防署西港派出所開設、石油基地の防災体制の確立を計る 1本部、3署、2支署、3出張所、1派出所、12ヶ分団、4特設部となる
53年 6月	釧路市消防音楽隊第1回演奏発表会を釧路市公民館で行う
53年 6月	自治体消防発足30周年記念式典を消防関係及び市民1,500名参加のもとに盛大に行う
53年 6月	第6代消防長 野原 浩嗣氏 退任
53年 6月	第7代消防長 藤田 誠司氏 就任
53年 7月	釧路日産自動車(株)より査察車の寄贈を受け、西署に配置する
53年 7月	知人町内会の軽可搬ポンプを購入、更新する
53年 9月	初の釧路市消防団、消防戦闘技能練成競技大会を行う
53年 9月	全国消防長会危険物委員会を当市で開催する
53年 9月	第23回消防協会釧路地方支部消防団員技能競技大会を釧路市で行う
53年11月	元釧路市消防団第8分団員 成田 竹三郎氏(勲7等瑞宝章)生存者叙勲の栄に輝く
54年 3月	釧路市興津第一はまなす子供会少年消防班、優良少年消防班として消防庁長官より表彰を受ける
54年 4月	元釧路市消防職員 宮川 正一郎氏(勲7等青色桐葉章)生存者叙勲の栄に輝く
54年 8月	北海道石油コンビナート等防災総合訓練を釧路市西港区域で開催し、大きな成果をあげた
54年 8月	火災時の電話問い合わせに対処するため火災自動案内装置を導入する
54年 9月	全消会北海道支部道東地区協議会主催の道東地区消防官の主張発表大会をオリエンタルホテルで開催する
54年 9月	第2回釧路市消防団、消防戦闘技能練成競技大会を行う
54年 9月	第24回消防協会釧路地方支部消防団員技能競技大会を行う(標茶町)
54年10月	釧路市消防音楽隊第2回演奏発表会を釧路市公民館で行う
54年11月	地震発生時の諸動作を体験させ、地震発生時に対処するため道内初の起震車を購入配置した
54年11月	元消防団第6分団長 小西 勇氏(勲6等瑞宝章)生存者叙勲の栄に輝く
54年11月	全国消防長会北海道支部総会を行う(釧路市)



年 月	事 項
昭和 54年11月	北海道消防学校校友会主催、全道消防人の主張発表大会を釧路市民文化会館で行う
54年12月	釧路市防火管理者連絡協議会より三折スノーケル車1台の寄贈を受け、中央署に配置する
55年 2月	中央消防署新橋支署に消防ポンプ自動車を購入、更新配置する
55年 2月	西消防署に救急車を購入、更新配置する
55年 4月	(株)森本商会より救急車の寄贈を受け東消防署武佐出張所に更新配置する
55年 4月	元釧路市消防団第5分団副分団長 木元 浅吉氏(勲7等瑞宝章)生存者叙勲の栄に輝く
55年 4月	(株)三ツ輪商会より救助技術訓練塔の寄贈を受け、消防本部訓練場に設置完成される
55年 5月	釧路日産自動車(株)より乗用車の寄贈を受け、総務課に配置する
55年 5月	消防外郭4団体より中型バスの寄贈(中古車)を受ける
55年 7月	全消会北海道支部道東地区協議会主催の道東地区消防官の主張発表大会を釧路信用金庫ホールで開催する
55年 9月	第25回消防協会釧路地方支部消防団員技能競技大会を行う(白糠町)
55年 9月	第3回釧路市消防団、消防戦闘技能練成競技大会を行う
55年10月	中央消防署愛国支署配置分として水槽付消防ポンプ自動車を購入する
55年11月	消防百年記念、消防団全国大会参加副団長他7名
55年11月	釧路市地区防災センター婦人防火隊より防火広報車の寄贈を受け、予防課に配置する
55年12月	第3代消防団長 浅川 正敏氏 退任、
55年12月	第4代消防団長 小船井 武次郎氏 就任
55年12月	司令車及び警防車(石油貯蔵施設立地対策交付金事業)を購入、総務課及び警防課に配置する
55年12月	釧路市中央消防署愛国支署庁舎完成、公用開始され、これにより1本部、3署、3支署、3出張所、1派出所、12ヶ分団、4特設部となった
55年12月	第1次消防行政改革に伴い分団派遣員を従来の2名体制から1名の日勤体制に切り替えた
56年 1月	釧路橋南地区水産加工工業協同組合より、消防ポンプ自動車の寄贈を受け中央消防署に更新配置する
56年 2月	石油貯蔵施設立地対策交付金により水槽付消防ポンプ自動車を購入し、東消防署に更新配置する
56年 3月	第3回釧路市消防音楽隊演奏発表会を釧路市公民館で行う
56年 3月	丸栄商事株式会社、(株)丸栄中田より救急車の寄贈を受け中央消防署に更新配置する
56年 3月	消防救急指令装置を導入し、開通式を行う

年 月	事 項
昭和 56年 4月	三ツ輪採石工業(株)から救助技術訓練塔の寄贈を受け、西消防署に配置する
56年 4月	釧路市消防団の執行体制を確立するため、副団長を3名制とし、担当事務の明確化をはかった
56年 4月	釧路市災害救助活動協力会設立
56年 8月	第6回全消会北海道支部道東地区協議会主催消防官の主張発表会を北海道新聞釧路支社ホールで開催する
56年 9月	第26回消防協会釧路地方支部消防団員技能競技大会を行う(弟子屈町)
56年10月	社団法人日本損害保険協会より16m級屈折はしご車の寄贈を受け東消防署に配置する
56年10月	第4回釧路市消防音楽隊演奏発表会を釧路市民文化会館で行う
56年10月	中央消防署に水槽付消防ポンプ自動車を購入更新配置する
56年10月	日本消防協会より小型軽可搬ポンプ一式の寄贈を受け、新富士婦人消防隊に配置する
57年 3月	第7代消防長 藤田 誠司氏 退任
57年 4月	第8代消防長 安宅 隆富氏 就任
57年 5月	元消防団第9分団副分団長 原田 清氏(勲6等瑞宝章)生存者叙勲の栄に輝く
57年 9月	第27回北海道消防協会釧路地方支部消防団員技能競技大会を行う(阿寒町)
57年 9月	日本消防協会より小型軽可搬ポンプ一式の寄贈を受け、愛国東部町内会婦人消防班、興津第1婦人救護班に配置する
57年10月	全消会北海道支部、危険物委員会を当市で開催する
57年11月	消防団第7分団に消防ポンプ自動車を購入、更新配置する
57年12月	東消防署桜ヶ岡出張所、消防団第11分団合同庁舎を改築する
58年 1月	第7回全消会北海道支部道東地区協議会主催の道東地区消防官の主張発表大会を釧路市立図書館ホールで開催される
58年 1月	釧路市西消防署西港派出所を閉所 1本部、3署、3支署、3出張所、12ヶ分団、4特設部となった
58年 4月	釧路日産自動車(株)より乗用車の寄贈を受け、消防本部に更新配置する
58年 4月	元消防団第8分団部長 藤田 勝氏(勲6等瑞宝章)生存者叙勲の栄に輝く
58年 6月	釧路水産協会加盟5団体より救難ゴムボートの寄贈を受け、中央消防署に配置する
58年 6月	釧路橋南地区水産加工工業協同組合より救急車の寄贈を受け、中央消防署愛国支署に配置する
58年 7月	協同組合釧路専門店会より小型梯子車の寄贈を受け、中央消防署に配置する
58年 7月	釧路市消防音楽隊後援会発足10周年を祝し、釧路パシフィックホテルに於て記念式典を挙行了した
58年 8月	中央消防署愛国救急隊、運用開始され、これにより4隊となった

年 月	事 項
昭和 58年 8月	北電工業(株)より、乗用車の寄贈を受け中央消防署に配置する
58年 8月	釧路市危険物安全協会より乗用車3台の寄贈を受け、中央、西、東各消防署に配置する
58年 8月	日本消防協会より小型軽可搬ポンプ式の寄贈を受け、第5地区婦人防火クラブ、大楽毛婦人消防班に配置する
58年 9月	第28回北海道消防協会釧路地方支部消防団員技能競技大会を行う(音別町)
58年10月	東消防署桜ヶ岡出張所に大型10t水槽車を購入配置する
58年10月	第5回釧路市消防音楽隊演奏発表会を釧路市民文化会館で行う (釧路市消防音楽隊発足30周年記念及び釧路市消防音楽隊後援会10周年記念演奏)
58年11月	自治体消防35周年記念、全国大会参加、消防団長他4名
58年12月	釧路日産自動車(株)より乗用車の寄贈を受け、東消防署に更新配置する
59年 2月	第8回全消会北海道支部道東地区協議会主催の道東地区消防職員意見発表会を釧路市図書館ホールで行う
59年 3月	消防団第4分団に消防ポンプ自動車を購入、更新配置する
59年 4月	釧路日産自動車(株)より乗用車の寄贈を受け、西消防署に更新配置する
59年 4月	釧路三菱ふそう自動車販売(株)より小型トラックの寄贈を受け、消防本部に更新配置する
59年 5月	(株)マルセンクリーニングより日本語ワードプロセッサの寄贈を受け、消防本部に配置する
59年 6月	濱水産工業(株)より救急車の寄贈を受け、西消防署に配置する
59年 9月	第29回北海道消防協会釧路地方支部消防団員技能競技大会を行う(釧路市)
59年 9月	西消防署大楽毛出張所に大型10t水槽車を購入配置する
59年 9月	消防本部に乗用車を購入、更新配置する
59年10月	第6回釧路市消防音楽隊演奏発表会を釧路市民文化会館で行う
59年10月	日本消防協会より小型軽可搬ポンプ式の寄贈を受け、新富士第23班婦人消防班に配置する
59年10月	全国消防長会危険物委員会を行う(釧路市)
59年10月	元釧路市消防職員 工藤 栄氏(勲5等瑞宝章)叙勲の栄に輝く
59年11月	元釧路市消防職員 宇佐美 新悦氏(勲6等単光旭日章)生存者叙勲の栄に輝く
59年11月	全国消防長会危険物委員会を行う(釧路市)
59年11月	釧路市家庭防災推進員連絡協議会を結成する
59年12月	釧路三菱ふそう自動車販売(株)より小型トラックの寄贈を受け、消防本部に配置する
60年 1月	消防団第2分団に消防ポンプ自動車を購入、更新配置する

年 月	事 項
昭和 60年 2月	第9回道東地区消防職員意見発表会を釧路市立図書館ホールで行う
60年 3月	第8代消防長 安宅 隆富氏 退任
60年 4月	第9代消防長 土田 久平氏 就任
60年 5月	職団員による消防近代化検討委員会を設置し、諮問する（委員19名）
60年 6月	釧路市連合防災推進協議会結成する
60年 8月	自主防災市民の集い（第7回釧路市消防音楽隊演奏会）を釧路市民文化会館で行う
60年 9月	第30回北海道消防協会釧路地方支部消防団員技能競技大会を行う（厚岸町）
60年 9月	釧路市防火管理者連絡協議会創立20周年を祝し、オリエンタルホテルに於て記念式典を挙行した
60年 9月	釧路市防火管理者連絡協議会よりパ - ソナルコンピューター1台等の寄贈を受け、消防本部に設置する
60年 9月	日本消防協会より小型軽可搬ポンプ一式の寄贈を受け、大楽毛地区消防班・城山協和会婦人消防班に配置する
60年10月	消防団第12分団に消防ポンプ自動車を購入、更新配置する
60年11月	東消防署桜ヶ岡出張所に水槽付消防ポンプ自動車を購入、更新配置する
60年12月	「消防近代化に関する推進策」答申
61年 1月	第10回道東地区消防職員意見発表会を釧路市立図書館ホールで行う
61年 1月	東消防署武佐出張所に救急車を購入し更新配置する
61年 2月	中央消防署愛国支署に大型10 t 水槽車を購入配置する
61年 4月	元消防団第11分団部長 奥山 勘之助氏（勲6等瑞宝章）叙勲の栄に輝く
61年 5月	職団員による「釧路市消防団活性化検討委員会」を設置し諮問する
61年 5月	釧路日産自動車(株)より小型ポンプ積載車2台寄贈を受け、桜田特設部、桂恋特設部に更新配置する
61年 7月	「釧路市消防団活性化に関する推進策」答申
61年 8月	北海道石油コンビナート等防災総合訓練を釧路西港区域で開催（出動台数25台、参加人員137名）
61年 9月	第31回北海道消防協会釧路地方支部消防団員技能競技大会を行う（釧路市）
61年 9月	財団法人自治総合センターより、自主防災組織育成事業として防火衣40着、防火ヘルメット40ヶ、救急訓練用人形4体を受け、釧路市連合防災推進協議会に配置する
61年 9月	日本消防協会より小型軽可搬ポンプ2台の寄贈を受け、新富士第4班婦人消防班、大楽毛南5さつき婦人消防班に配置する
61年10月	西消防署大楽毛出張所に釧路市消防本部が独自で開発した全国初の7 t 水槽付消防自動車を購入し配置する
61年10月	自主防災組織研修会をオリエンタルホテルにおいて行う
61年11月	元消防団第1分団長 大杉秀太郎氏（勲6等瑞宝章）叙勲の栄に輝く

年 月	事 項
昭和 61年11月	釧路市愛国191に北海道で初めての釧路市空中消火等補給基地完成（ヘリコプター離着陸広場13,869㎡、防火水槽40トン級、資器材保管等施設、耐火構造平屋204.12㎡、空中消火剤散布装置5基）
62年 1月	第11回道東地区消防職員意見発表会を釧路市立図書館ホールで行う
62年 1月	消防団第9分団に消防ポンプ自動車を購入更新配置する
62年 3月	第9代消防長 土田 久平氏 退任
62年 4月	第10代消防長 横山 肇氏 就任
62年 5月	釧路日産自動車(株)より乗用車の寄贈を受け、本部司令2号車を更新配置する
62年 9月	団活性化事業推進のためのライトバン2台を購入し、中央消防署、東消防署に配置する
62年 9月	第32回北海道消防協会釧路地方支部消防団員技能競技大会を行う（鶴居）
62年10月	東消防署武佐出張所に7t水槽付消防ポンプ自動車を購入し更新配置する
63年 1月	第12回道東地区消防職員意見発表会を釧路キャッスルホテルで行う
63年 1月	永楽交通(株)より救急車の寄贈を受け、中央消防署に配置する
63年 2月	消防団第6分団に消防ポンプ自動車を購入し、更新配置する
63年 3月	消防殉職者の追悼式を釧路市公民館で執り行う
63年 4月	各出張所を支署に昇格 現有勢力は、1本部、3署、6支署、12ヶ分団、4特設部となる
63年 7月	釧路市連合防災推進協議会会長荒澤喜代三郎氏が消防安全功労者として、消防庁長官より表彰を受ける
63年 8月	北海道防災総合訓練を釧路市において実施
63年 9月	第33回北海道消防協会釧路地方支部消防団員技能競技大会を行う（川湯）
63年 9月	釧路日産自動車(株)より小型ポンプ積載車1台寄贈を受け、山花特設部に更新配置する
63年11月	元消防団第6分団分団長 高玉 一雄氏（勲6等瑞宝章）叙勲の栄に輝く
63年11月	消防団活性化事業推進のため、ライトバン1台を購入し、西消防署に配置する
63年11月	消防100年記念事業実行委員会設立総会
63年12月	中央消防署新橋支署に7t水槽付消防ポンプ自動車を購入し更新配置する
平成 元年 1月	第13回道東地区消防職員意見発表会を釧路オリエンタルホテルで行う
元年 4月	元釧路市消防職員 畔田 茂夫氏（勲6等瑞宝章）叙勲の栄に輝く
元年 7月	釧路市消防100年記念式典を釧路市民文化会館で行う
元年 8月	釧路日産自動車(株)より乗用車の寄贈を受け、本部司令2号車を更新配置する
元年 9月	第34回北海道消防協会釧路地方支部消防団員技能競技大会を行う（浜中町）

年 月	事 項
平成 元年 9月	北海道三菱ふそう自動車販売(株)より小型ポンプ積載車1台寄贈を受け、北斗特設部に更新配置する
元年10月	中央消防署に30m級梯子自動車を購入し更新配置する
2年 1月	第14回道東地区消防職員意見発表会を釧路オリエンタルホテルで行う
2年 2月	消防団第1分団に消防ポンプ自動車( C D )を購入し更新配置する
2年 4月	元釧路市消防職員 松田 秀夫氏(勲4等瑞宝章)叙勲の栄に輝く
2年 9月	財団法人日本消防協会より「指揮広報車」の寄贈を受ける
2年 9月	釧路青年会議所指導力開発委員の消防体験研修会を実施する
2年 9月	第35回北海道消防協会釧路地方支部消防団員技能競技大会を行う(標茶町)
2年10月	西消防署に救急車を購入し更新配置する
2年10月	全国消防長会北海道ブロック消防長研修会を釧路東映ホテルで行う
2年10月	防災講演会を釧路オリエンタルホテルで行う
3年 1月	第15回道東地区消防職員意見発表会を釧路オリエンタルホテルで行う
3年 1月	中央消防署鉄北支署に7t水槽付消防ポンプ自動車を購入し更新配置する
3年 2月	中央消防署に救助工作車を購入し配置する
3年 2月	消防団第10分団に消防ポンプ自動車( C D- )を購入し更新配置する
3年 3月	第10代消防長 横山 肇氏 退任
3年 4月	第11代消防長 本川 實氏 就任
3年 4月	釧路方面遊技業組合連合会・釧路遊技業組合より火災原因調査用車両の寄贈を受け、予防課に更新配置する
3年 4月	元釧路市消防職員 阿久津 忠憲氏(勲6等瑞宝章)叙勲の栄に輝く
3年 5月	消防体制研究委員会を設置し、諮問する(委員64名)
3年 9月	第36回北海道消防協会釧路地方支部消防団員技能競技大会を行う(白糠町)
3年 9月	釧路市高齢者等緊急通報システム運用開始
3年10月	社団法人日本損害保険協会より化学ポンプ自動車の寄贈を受け、東消防署に更新配置する
3年12月	東消防署武佐支署に救急車( 2 B型 )を購入し更新配置する
4年 1月	第16回道東地区消防職員意見発表会をホテルレイTON釧路で行う
4年 2月	消防団第3分団に消防ポンプ自動車( C D )を購入し更新配置する
4年 8月	カナダバーナビー市と消防国際技術交流を行う
4年 9月	第37回釧路管内消防団員技能競技大会を行う(釧路市)
4年 9月	釧鉄工業(株)より広報車の寄贈を受け、大楽毛支署に配置する

年 月	事 項
平成 4年10月	大栄産業(株)・釧路日産自動車(株)より乗用車の寄贈を受け、本部司令2号車を更新配置する
4年11月	元消防団第3分団長 佐藤 栄一氏(勲6等瑞宝章)叙勲の栄に輝く
4年12月	第4代消防団長 小船井 武次郎氏 退任
4年12月	第5代消防団長 本間 仁郎氏 就任
5年 2月	第17回道東地区消防職員意見発表会をホテルレイトン釧路で行う
5年 2月	西消防署に7t水槽付消防自動車を購入し増強配置する
5年 3月	第11代消防長 本川 實氏 退任
5年 4月	第12代消防長 中井 千年氏 就任
5年 4月	元消防団長 小船井 武次郎氏(勲4等瑞宝章)叙勲の栄に輝く
5年 4月	元消防団第11分団分団長 石坂 勇雄氏(勲6等単光旭日章)叙勲の栄に輝く
5年 8月	釧路市危険物安全協会創立30周年記念式典を釧路パシフィックホテルで行う
5年 8月	財団法人日本消防協会より救急自動車の寄贈を受ける
5年 9月	第38回釧路管内消防団員技能競技大会を行う(釧路町)
5年 9月	全国消防協会北海道地区支部消防実務講習会を釧路プリンスホテルで行う
5年10月	財団法人日本消防協会地震等防災対策委員会を釧路プリンスホテルで行う
5年11月	自治体消防45周年記念大会の参加 (団長他12名)
5年11月	元消防団第6分団副分団長 坂井 惣之助氏(勲6等瑞宝章)叙勲の栄に輝く
5年12月	中央消防署に高規格救急自動車を購入し配置する
6年 1月	高規格救急自動車運用開始
6年 4月	組織・機構改革、交替制勤務部門の2係制から3課体制へ移行
6年 4月	全国消防長会北海道支部定期総会を釧路市で開催
6年 6月	釧路商工信用組合から、消防指揮車の寄贈を受け、中央消防署に配置
6年 7月	新橋支署に水難救助車を配置し、潜水資格者8名をもって、潜水業務を開始
6年 8月	北海道石油コンビナート防災総合訓練を釧路市で開催
6年 9月	第39回釧路管内消防団員技能競技大会を行う(弟子屈町)
6年10月	新消防庁舎・市民防災センター着工
6年11月	元消防団第5分団分団長 高橋正好氏(勲6等瑞宝章)叙勲の栄に輝く
6年12月	第5代消防団長 本間 仁郎氏 退任
6年12月	第6代消防団長 三宮 久蔵氏 就任
7年 3月	消防団第8分団に消防ポンプ自動車(CD)を購入し更新配置する
7年 3月	第12代消防長 中井 千年氏 退任
7年 3月	第13代消防長 山崎 強氏 就任

年 月	事 項
平成 7年 4月	元釧路市消防職員 佐藤 作次氏（勲5等瑞宝章）叙勲の栄に輝く
7年 4月	元消防団第4分団長 佐竹 善一氏（勲6等瑞宝章）叙勲の栄に輝く
7年 4月	釧路市防火管理者連絡協議会創立30周年記念式典を釧路パシフィックホテルで行う
7年 6月	平成7年度釧路川水防公開演習を釧路市（鶴見橋上流右岸）で実施
7年 7月	トヨタビスタ釧路(株)から「消防広報車」の寄贈を受け、中央消防署に配置する
7年 9月	第40回釧路管内消防団員技能競技大会を行う（阿寒町）
7年10月	東洋不動産(株)から「消防ポンプ自動車」の寄贈を受け、釧路市消防団第5分団に配置する
7年11月	元消防団第9分団副分団長 菊池 一好氏（勲6等瑞宝章）叙勲の栄に輝く
8年 2月	中央消防署に25m級の屈折梯子車を配置する
8年 3月	西消防署大楽毛支署に 型化学消防車を配置する
8年 5月	元消防団第8分団分団長 田宮 梅二氏（勲6等瑞宝章）叙勲の栄に輝く
8年 6月	釧路ぬさまいライオンズクラブから「消防広報車」の寄贈を受け、予防課に配置する
8年 9月	第41回釧路管内消防団員技能競技大会を行う（釧路市）
8年12月	第13代消防長 山崎 強氏 退任
8年12月	第14代消防長 大滝 芳秋氏 就任
9年 3月	中央消防署に2.5t水槽付消防車を購入し特別救助隊車として配置する
9年 3月	(株)三ツ輪運輸よりワープロ5台、(株)三ツ輪商会よりパソコン一式・ワープロ2台の寄贈を受け、全所属に更新配置する
9年 4月	機構・制度改革により、地区防災センター担当員を職員から嘱託職員に切り替える
9年 6月	新消防庁舎（消防本部・中央消防署・消防団本部）・市民防災センター竣工、消防庁舎供用開始する
9年 6月	新庁舎供用開始に伴い消防緊急通信指令システム運用開始
9年 6月	元釧路市消防長 松田秀夫氏より救助訓練用資器材一式の寄贈を受け、中央消防署に配置する
9年 6月	元釧路市消防職員 佐藤 作次氏より、新庁舎用国旗掲揚ポール一式の寄贈を受ける
9年 6月	荒澤ハルノ氏よりビデオライブラリー用防災ビデオテープ一式の寄贈を受け、市民防災センターに配置する
9年 7月	新消防庁舎並びに市民防災センター落成記念式典を新庁舎屋内訓練場において挙行する
9年 7月	釧路市民防災センター供用開始する
9年 9月	第42回釧路管内消防団員技能競技大会を行う（厚岸町）



年 月	事 項
平成 9年10月	元消防団第9分団分団長 川嶋 一男氏（勲6等単光旭日章）叙勲の栄に輝く
9年10月	全国消防長会北海道支部署長等研修会を新消防庁舎で行う
10年 3月	組織機構改革により中央消防署鉄北支署を廃止する
10年 3月	第14代消防長 大滝 芳秋氏 退任
10年 4月	第15代消防長 橋爪 義憲氏 就任
10年 9月	全道消防職員消防実務講習会を釧路プリンスホテルで行う
10年 9月	第43回釧路管内消防団員技能競技大会を行う（弟子屈町川湯）
10年 9月	(株)押切カーサービスから「消防指揮車」の寄贈を受け、中央消防署に配置する
10年 9月	北海シェル石油(株)から一体型液晶ビデオ映写機一式の寄贈を受け、予防課に配置する
11年 2月	中央消防署新橋支署に災害支援車を配置する
11年 4月	元消防長 藤田 誠司氏（勲4等瑞宝章）叙勲の栄に輝く
11年 4月	元副団長 佐藤 三郎氏（勲6等単光旭日章）叙勲の栄に輝く
11年 5月	全国消防長会救急委員会を釧路プリンスホテルで行う
11年 5月	石川文庫からワープロ1台の寄贈を受け、総務課に配置する
11年 6月	21世紀を見据えた釧路市消防のあるべき方向を策定するため、釧路市消防本部基本計画策定委員会を設置
11年 8月	佐藤 三郎氏から消防団員用行動帽の寄贈を受け、給与する
11年 9月	第44回釧路管内消防団員技能競技大会を行う（音別町）
11年11月	(株)押切カーサービスから「予防車」の寄贈を受け、西消防署に配置する
11年12月	釧路市消防団第4分団庁舎（コミュニティ消防センター）移転新築落成
12年 2月	東消防署に救助隊車を購入し、更新配置する
12年 3月	第15代消防長 橋爪 義憲氏 退任
12年 4月	第16代消防長 宮下 春夫氏 就任
12年 6月	日立クレジット(株)から空気呼吸器用軽量ボンベ50本の寄贈を受ける
12年 6月	釧路勝栄運輸(株)から資機材保管用コンテナの寄贈を受ける
12年 7月	全国消防長会北海道支部警防救急事務研究会を釧路プリンスホテルで行う
12年 9月	第45回釧路地方支部消防団員技能競技大会を行う（浜中町）
12年10月	吉岡製函(株)から液晶プロジェクター及びビデオデッキ式の寄贈を受け、予防課に配置する
13年 2月	釧路日産自動車(株)から「消防指令車」の寄贈を受け、総務課に配置する
13年 4月	元副団長 館山 操氏（勲6等単光旭日章）叙勲の栄に輝く
13年 4月	日立キャピタル(株)から空気呼吸器用軽量ボンベ41本の寄贈を受ける

年 月	事 項
平成 13年 4月	北斗特設部、山花特設部、桜田特設部を統合、第13分団に昇格する
13年 4月	釧路ぬさまいライオンズクラブから心肺蘇生用訓練人形6体の寄贈を受ける
13年 5月	三ッ輪運輸(株)から「高規格救急車」の寄贈を受け、東消防署武佐支署に配置する
13年 6月	村井建設(株)・太平洋建設工業(株)の両社から国旗掲揚ポールの寄贈を受ける
13年 6月	(株)陸冷・北海貨物(株)の両社から資機材保管コンテナの寄贈を受ける
13年 8月	昭和シェル石油(株)からノートパソコンの寄贈を受ける
13年 8月	全国消防長会北海道支部警防委員会を釧路プリンスホテルで行う
13年 9月	第46回釧路地方支部消防団員技能競技大会を行う(鶴居村)
13年11月	全国消防長会北海道支部消防長研修会を釧路プリンスホテルで行う
13年12月	I S O内部監査・I S O初動審査
14年 2月	一心会50周年記念式典
14年 3月	第16代消防長 宮下 春夫氏 退任
14年 4月	第17代消防長 柳澤 慶三氏 就任
14年 4月	釧路市消防本部基本計画に基づく組織機構の見直し <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 釧路市消防署1署体制の確立に伴い中央・西・東方面本部制へ移行</li> <li>・ 救急救命本部の設立(救急隊の専任化)</li> <li>・ 査察指導課の新設</li> <li>・ 新橋支署潜水隊の配置換えに伴い、中央方面本部救助係を救助水難担当に改める</li> </ul>
14年 5月	元分団長 松田 廣司氏(勲六等瑞宝章)叙勲の栄に輝く
14年 6月	平成14年度危険物保安功労者消防庁長官表彰 王子製紙受賞
14年 6月	第54回北海道消防大会開催
14年 6月	消防音楽隊50周年記念式典、同後援会30周年記念
14年 7月	音楽隊後援会よりスモークマシン2台寄贈を受ける
14年 8月	市政80周年記念式典
14年 9月	ドクターヘリ・デモフライト
14年 9月	第47回釧路地方支部消防団員技能競技大会(標茶町)
14年 9月	B C 想定訓練
14年10月	第1回家庭防災推進員研修会を開催
15年 2月	中央方面本部に小型梯子車を購入し、更新配置する
15年 2月	宮地昌治氏より高規格救急車の寄贈を受け、救急救命本部愛国救急隊に配置する
15年 3月	東方面本部桜ヶ岡支署に水槽付ポンプ自動車を購入し、更新配置する
15年 3月	第17代消防長 柳澤 慶三氏 退任

年 月	事 項
平成 15年 4月	第18代消防長 小島 忠利氏 就任
15年 4月	元消防長 土田久平氏（勲四等瑞宝章）叙勲の栄に輝く
15年 4月	元消防団第8分団長 中谷千代明氏（勲六等瑞宝章）叙勲の栄に輝く
15年 9月	第48回釧路地方支部消防団員技能競技大会（釧路町）
15年10月	防災ワンデー（釧路沖地震記念事業）
15年10月	釧路市危険物安全協会よりパソコン5台等の寄贈を受ける （創立40周年記念事業）
15年11月	（株）陸冷・（有）北海エクスプレスの両社から資機材保管コンテナの寄贈を受ける
15年11月	元釧路市消防職員 三木 武氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
15年11月	緊急消防援助隊北海道・東北ブロック合同訓練参加（新潟市）
15年11月	自治体消防55周年記念式典（東京都）
15年11月	全国消防広報コンクール消防庁長官表彰受賞（広報ポスター）
16年 2月	高規格救急車を購入し救急救命本部中央救急隊に更新配置する
16年 3月	第18代消防長 小島 忠利氏 退任
16年 4月	第19代消防長 新野 導房氏 就任
	元消防団副団長 細口 重夫氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
	元消防団第4分団長 福井 昭二氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
16年 6月	全国消防長会北海道支部総務事務研究会を釧路プリンスホテルで行う
16年 8月	北海道石油コンビナート防災総合訓練実施（兼 釧路市防災総合訓練）
16年 9月	防災ワンデー2004開催（釧路沖地震記念事業）
16年 9月	（社）北海道危険物安全協会連合会道東地区ブロック会議開催
16年 9月	第49回釧路地方支部消防団員技能競技大会（白糠町）
16年10月	釧路市家庭防災推進員連絡協議会設立20周年記念式典開催
17年 3月	中央方面本部にスノーケル車を購入し、更新配置する
17年 4月	元消防職員 北野 尚邦氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
	元消防団副団長 渡邊 忠義氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
17年 5月	釧路市連合防災推進協議会設立20周年記念祝賀会
17年 9月	第50回釧路地方支部消防団員技能競技大会（弟子屈町）
17年 9月	防災ワンデー2005開催（釧路市・阿寒町・音別町3市町合併記念）
17年10月	釧路市・阿寒町・音別町の合併及び白糠町の消防事務を受託したことに伴い消防本部の組織を見直し、定員352名の新体制となる ・1署3方面本部1救急救命本部体制を3消防署体制とした

年 月	事 項
平成 17年10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合併した阿寒町・音別町及び消防事務を受託した白糠町はそれぞれ西消防署の支署となる</li> <li>・救急救命本部は本部の救急課とし、各救急隊は各消防署（支署）へ組み入れた</li> <li>・警防課通信火災調査担当は、警防課から分離し通信指令課となる</li> <li>・消防団は、釧路市消防団に阿寒消防団、音別消防団が加わり連合体制となる</li> </ul> <p>連合消防団長（釧路市消防団長） 三宮 久蔵氏 就任</p> <p>〃 副団長（阿寒消防団長） 大平 武夫氏 就任</p> <p>連合消防団副団長（音別消防団長） 平間 正光氏 就任</p>
17年11月	釧路市防火管理者連絡協議会創立40周年記念式典祝賀会
17年11月	西消防署阿寒支署に高規格救急車及び指令車を購入し、更新配置する
18年 2月	東消防署武佐支署に水槽付ポンプ自動車を購入し、更新配置する
18年 3月	第19代消防長 新野 導房氏 退任
18年 4月	第20代消防長 開沼 静雄氏 就任
	元消防職員 根田 茂夫氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
18年 6月	西消防署音別支署建設工事着工（平成19年7月完成予定）
18年 7月	消防緊急指令施設切替工事着工（平成19年4月運用開始予定）
18年 9月	防災ワンデー2006開催
	全国消防協会北海道地区支部実務講習会（予防・広報講習）を釧路プリンスホテルで行う
	第51回釧路地方支部消防団員技能競技大会（釧路市）
	東消防署桜ヶ岡支署に予防広報車を購入し、更新配置する
18年11月	西消防署大楽毛支署に水槽付ポンプ自動車を購入し、更新配置する
	元消防職員 岡崎 忠氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
	元消防職員 加藤 政行氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
	元消防職員 幸内 未吉氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
	釧路市消防団長 三宮 久蔵氏消防功労者総務大臣表彰の栄に輝く
19年 4月	消防緊急指令施設運用開始
	元消防職員 嶋守 登氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
	元消防職員 池田 勲氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
	元消防職員 上地 一男氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
19年 7月	西消防署音別支署供用開始
19年 9月	防災ワンデー2007開催
	第52回釧路地方支部消防団員技能競技大会（厚岸町）

年 月	事 項
平成 19年11月	元消防職員 千葉 昭治氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
	元消防職員 吉永 弘志氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
	元消防職員 村上 清吉氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
19年11月	元消防職員 徳泉 昌生氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
20年 2月	中央消防署愛国支署に水槽付ポンプ車を購入し、更新配置する
20年 3月	自治体消防60周年記念式典（東京都）
	第20代消防長 開沼 静雄氏 退任
20年 4月	第21代消防長 楡金 達朗氏 就任
	釧路市消防団、阿寒消防団、音別消防団が統合し釧路市消防団となる
	元消防職員 鏡 潔氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
	元消防職員 鳴海 利一氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
	元消防職員 郡司掛 則之氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
20年 7月	北海道洞爺湖サミット消防特別警戒 指揮隊派遣（伊達市 8名）
	” 救助隊派遣（苫小牧市 10名）
	” 予防警戒員派遣（千歳市 2名）
20年 9月	防災ワンデー2008開催
	第53回釧路地方支部消防団員技能競技大会（弟子屈町）
20年10月	全国消防長会北海道支部署長研修会を釧路プリンスホテルで行う
20年11月	元消防職員 羽田 正道氏（瑞宝双光章）叙勲の栄に輝く
	元消防職員 斎藤 憲明氏（瑞宝双光章）叙勲の栄に輝く
	元消防団分団長 平山 義一氏（瑞宝単光章）叙勲の栄に輝く
20年12月	西消防署に高規格救急車を購入し、更新配置する



平成 21 年版 消防年報

平成 21 年 3 月 発行

発行先 釧路市消防本部総務課  
釧路市南浜町 4 番 8 号  
電話 0154-22-2156

E - mail: [ku400103@city.kushiro.hokkaido.jp](mailto:ku400103@city.kushiro.hokkaido.jp)